

絶対に怒ってはいけない!?

作／榎原 拓

◎登場人物

- プッチン中村（50・男）劇団プッチン主宰、劇作家・演出家、俳優
加賀レオナ（49・女）劇団プッチン役者、旗揚げメンバー
高木麻衣（45・女）劇団プッチン制作、初期メンバー
佐藤良一（40・男）劇団プッチン役者、在籍15年
井上文子（35・女）劇団プッチン役者・劇作家、在籍10年くらい
宮野健太（25・男）劇団プッチン役者、在籍5年くらい
瀬戸内海斗（20・男）劇団プッチン新人、役者志望
鈴木さくら（22・女）劇団プッチン制作見習い
- 早乙女亜由美（60・女）女優
久保 渡（30・男）早乙女のマネージャー
寺本 誠（35・男）フリーライター
- 桜井正直（27・男）松原キクオの親友
スーツ姿の男

第一場

この物語は今ある現実の世界にすごくよく似た、でもちよつとだけ違う架空の世界の物語である。

2022年4月。

都内の雑居ビル内にある劇団プッチンの事務所。

舞台上手奥に外との出入口があり、そのあたりに応接用のローテーブルとソファ、あり合わせのイスが数脚置かれている。

舞台奥側の上手側には流しやトイレにつながる通路、下手側は窓になっている。

舞台下手奥に稽古場につながるドアがある。

舞台下手エリアには事務機があり、その上にはFAX機能付き電話機、プリンター、ファイルなどが置かれている。

方々の壁には物置棚が置かれ、荷物が所狭しと入れられ、また、そこから溢れた荷物がそこかしこに並べられている。

全体的にかなり雑然としているが、それは活発に活動している証でもある。

暗転中に電話が鳴る。

明かりが入ると、劇団プッチン制作スタッフの高木麻衣が電話に出る。

高木 はい、劇団プッチンでございます……はい？……あの、プーチンじゃなくて、プッチンです。劇団プッチン……はい？……あの、プッチンですよ、プッチン。プーチンって、伸ばさないんです。撥ねるんです、プッチンって……ですから、それプーチンでしょ。あなた言ってるのは、P・U・T・I・N、うちは、P・U・T・T・I・N、Tが一個多いんです。Tが……英語分らない？ 知りませんよ……いや、ですからとにかく、うちはロシアとは何の関係もないですから……だから、プーチンじゃなくて、プッチンって言うてるでしょ……もしもし？ もしまし？ (切れる) あっ……クッソー……。

通話途中で制作見習いの鈴木さくらが入って来ていた。

高木、通話しながら、イスに座るように鈴木を促す。

鈴木、イスに腰掛ける。

鈴木 おはようございます。

高木 おはよう。

鈴木 また昨日の人ですか？

高木 うん。プーチンは日本から出てけ！って。プーチンが日本にいるわけないじゃんね。

鈴木 男の人ですよね？

高木 うん。多分、6、70くらいだと思っただけ。

鈴木 ああー。

高木 迷惑な人多いからねえ。順番とか待てないしね。

鈴木 ああー。

高木 電車待つてる時にさあ、こっちに並んでるのに、平気でそれ無視して、前の方に陣取っちゃう人とかね。

鈴木 ああー。

高木 車内で通話するのもたいてい高齢者でしょ。

鈴木 確かに。

高木 何なんだろうね、あれ。電話鳴ったら絶対とらないとって思っちゃうのかね。

鈴木 ああー……私、逆に電話鳴っても出ないですけどね。

高木 出ないよね、電車中じゃ。

鈴木 っていうか、電話自体出ないです。

高木 えっ？ 電車じゃなくても？

鈴木 はい。家とかでも出ないですね。

高木 えっ？ 無視？

鈴木 そのあとLINEで聞きます。用件何？って。

高木 そうなの？

鈴木 はい。でもまあ、滅多にかかってこないですけどね。

高木 だけどさあ、かかってきたら出ちゃった方が早くない？

鈴木 なんか、苦手なんですよねー、電話。

高木 そうなんだ。

鈴木 はい。

高木 まあでも、これから制作スタッフやっていこうって思うんだったら、電話くらいとれないとね。

鈴木 あっ、でも、仕事なら全然とりますよ。

高木 そう？

鈴木 はい。なので、高木さんからの電話もちやんととりますんで。

高木 ああー。

鈴木 はい。

高木 なら、いいけど。

鈴木 だけど、いくら何でも、プーチンとプツチンくらい区別つきますよね？

高木 たぶんねえ、ここ（頭）がちよっと劣っちゃってんだと思う。

鈴木 ああー。

高木 判断力とか認知力？ あるいはよく目が見えてないとかね？

鈴木 そうなんですか？

高木 うん。だいたいみんな白内障だから。高齢者って。

鈴木 へえー。

高木 いろんなものが濁って見えてるからさあ、うちの親父も、もう80過ぎてんだけど、だいたい見えてないからね。

鈴木 はあ。

高木 こないだも梅干しをらつきようだと思って食っちゃって、酸っぱい！とかさあ。

鈴木 ああーハハハツ……。

高木 車も運転してるからさあ、いつアクセルとブレーキ踏み間違えて事故起こすんじゃないかって……。

鈴木 ああー。

高木 大変だよ。

鈴木 ああー、それで小さい「つ」が伸ばす「ー（傍線）」に見えて、プツチンがプーチンってなっちゃうんですかね。

高木 でもさあ、例えプーチンだとしてもだよ、うちの劇団が。劇団プーチン。それ実際のプーチンと何の関係もないじゃんね。

鈴木 ホントですよね。

高木 はあー、面倒くさいなあ。

鈴木 でもなんでプツチンなんですか？

高木 えっ？

鈴木 劇団名。

高木 ああ、まあ、プッチン中村が主宰しているからねえ。それで劇団名もプッチンなんだろうけどさあ。

鈴木 でもなんで中村さんはプッチンって言うんですか？

高木 ああー、なんかねえ、昔、プッチンさん、子役だったのよ。

鈴木 えっ？ そうなんですか？

高木 結構、人気あったらしくってさあ、なんだっけ？ あのドラマ。

鈴木 ドラマ？

高木 ほら、80年代のさあ、超有名なドラマ。

鈴木 えっ？

高木 なんだっけ？ ほら、あの……刑事ドラマ……ここまで出かかってんだけど……

鈴木 80年代ですか……。

高木 うん。なんだっけなあ……分かんないかなあ。

鈴木 自分、2000年生まれなんで。

高木 ああ、そっか……そうだよね。

鈴木 っていうか、子役だったんですね。

高木 そうなのよ。今ドキで言うときさあ、福くんとかさあ。心君とか。

鈴木 ああー。えっ、そんな有名だったんですか？

高木 そうらしいよ。

鈴木 へえー、すごいですねー。

高木 なんか、黒澤明の映画にも出たことあるらしくって。

鈴木 あっ？ そうなんですか？

高木 まあ、それはチョイ役だったみたいだけど。でも世界のクロサワだからねえ。

鈴木 へえー……えっ、その子役っていうのがなんか関係あるんですか？

高木 あっ、そうそう、それでね……。

上手の出入り口から劇団員・井上文字^{ふみこ}（劇作家・俳優）と佐藤良一^{りょういち}（俳優）が入ってくる。

井上・佐藤 おはようございます。

高木 あっ、おはよう。

鈴木 (立ち上がり) おはようございます。

高木 (鈴木) あっ、初めてだよね。

鈴木 はい。

高木 紹介するね。(井上・佐藤に) 制作見習いの鈴木さん。

井上・佐藤 ああー。

鈴木 鈴木さくらと申します。よろしくお願ひします。

井上 劇団員の井上文子と申します。

佐藤 佐藤良一って言います。

鈴木 よろしくお願ひします。

高木 こないだの『三人芝居』観てくれて、それで。

井上 あっ、そうなんです。

高木 でも観たのCキャストだから、二人のじゃなかったね。

鈴木 すみません。すごい面白かったんで、他のバージョンも観たかったですけど

……。

井上・佐藤 いえいえ。

高木 文子は劇作の勉強もしてて。

鈴木 へえー。

井上 役者もやるんですけどね。

高木 で、今度のリーディングでは脚本担当なの。

鈴木 あっ、そうなんです。

高木 それで、佐藤は役者。何年目だっけ。

佐藤 十五年目です。

鈴木 もうベテランじゃん。

佐藤 いやいや……。

井上 (鈴木は) もう劇団員って感じなんですか？

高木 いやいや、まだ、試用期間っていうか、今度のリーディング手伝ってもらって、

それでどうするかって感じ。(鈴木) ねっ？

鈴木 あっ、はい。

井上 そっか、よろしくお願ひします。

鈴木 こちらこそよろしくお願いします。

井上 急に決まった企画だから、すごいバタバタして大変だと思うんだけど、イヤになつて辞めたりなんかしないでね。

鈴木 頑張ります！

高木 ちよつとちよつと、そんな脅さないですよ。本当に辞めちゃうじゃない。

鈴木 あつ、辞めないなので、大丈夫です。根性だけありますから。

井上 じゃあ、心強い。

佐藤 あれ？ もう一人は……。

高木 もう一人？

井上 制作ですか？

佐藤 いやいや、役者、新人の。

井上 ああー。

高木 あつ、そういうえば瀬戸内君……。 (スマホを見て) あつ、LINE来てた。

井上 なんて？

高木 電車止まつてるつて。

井上 えっ？ 何線ですか。

高木 中央線。人身事故だつて。

井上 ありやりや……。

佐藤 あれ、じゃあ、プッチンさんもじゃん。

井上 あつ、そうだ、プッチンさん、荻窪。

LINEの通知音

高木 あつ、噂をすれば……。 (スマホ見て) プッチンさん……。今、中野だつて。メト

口に乗り換えて来るつて。

佐藤 じゃあ、そんなかかないね。

井上 そうですね。

佐藤 ちよつとトイレ行つて来るわ。

井上 あつ、はい。

佐藤、奥の上手側のドアから去る。

高木 そしたら、始めようか。

鈴木 あっ、はい。

高木 これが打ち込むデータね。

鈴木 はい。

高木 (PCの画面を見せて) ここに、とりあえず名前とメールアドレスだけ打って
もらえる？

鈴木 あっ、はい。

高木 一番最後にチェックするから、とりあえずバーツって入力しちゃっていいから。

鈴木 あっ、あの一。

高木 ん？

鈴木 これ、スマホで打っちゃだめですかね？

高木 スマホ？

鈴木 はい。自分Macなんで……。

高木 ああー……じゃあ、まあ、それでもいいか……。

鈴木 はい。打ち込んだらLINEで送ればいいですかね？

高木 あっ……LINEじゃなくて、メールで送ってもらっていい？

鈴木 あっ、はい。

高木 よろしく。

鈴木、スマホでデータ入力始める。

井上 レオナさんも中央線でしたっけ？

高木 いや、レオナさん西武線。

井上 あっ、そっか……じゃあ、もうじき来ますね。

高木 うん。

劇団の電話が鳴り、高木が出る。

高木 はい、劇団プッチンでございます……ですから、プッチンです！……もういい
加減にして下さい。通報しますよ！……えっ？ チェーホフ？……それ、『三人姉

妹』じゃなくて『三人芝居』です!……いやいや、「しまい」じゃなくて「し・ば・い」! 三人でやる芝居です……オリジナルです! チェーホフ関係ないです。……だから、プーチンじゃなくてプツチン! (電話が切れる) あっ……もうー!

井上 例のですか?

高木 そう。

通話中に佐藤が戻ってきている。

佐藤 それ、なんか、着信拒否とかできないんですかね。

高木 電話機が対応してないのよ。

佐藤 ああー。

井上 買い換えた方がいいんじゃないですか。ちょっと古いし。

高木 お金があればねえ。

井上 ああー、補助金が通ってれば……。

高木 もうそれは言わない!

井上 はい。

高木 あっ、そうだそうだ、劇団の名前……。

鈴木 あーあーあー……。

高木 そうそうそう、ドラマドラマ、なんだっけ……。 (佐藤と井上に) なんかない?

80年代の刑事ドラマ。

佐藤・井上 80年代の刑事ドラマ?

佐藤 『太陽にほえろ』とか?

高木 いや、それじゃなくて。

井上 『西部警察』?

高木 いや、それも違う。

佐藤 えっ?

佐藤 『大都会』!

高木 いやいや……石原軍団は忘れて。

佐藤・井上 ええー……。

佐藤 あっ!

高木 何?

佐藤 『六本木ダンディおみやさん』？

高木 何それ？

佐藤 知りませんか？ 石ノ森章太郎の漫画が原作の。

高木 聞いたことないよ。

井上 えっ？ 80年代の刑事ドラマが何なんですか？

高木 プッチンが子役で出てたやつだよ。

井上 ああー……なんか聞いたことがありますね。

佐藤 何だっけ……。

上手の入口から劇団員・加賀レオナ（看板女優）がやって来る。

加賀 おはよう。

一同 おはようございます！

高木 あっ、レオナさん、いいところ来た。

加賀 どうしたの？

高木 プッチンさんが、昔、子役で出てたドラマなんでしたっけ？

加賀 ああー……。

高木 80年代の刑事ドラマ。

加賀 刑事ドラマ？ 『太陽にほえろ』？

高木 いや、それじゃなくて。

加賀 『西部警察』？

高木 いやいや。

加賀 『大都会』？

佐藤 ほら、やっぱり刑事ドラマって言ったらその三つですよ。

高木 いや、でも石原軍団じゃないんだよ。

加賀 刑事ドラマだっけ？

高木 えっ？

加賀 学園ドラマじゃなかった？

高木 学園ドラマ？

加賀 ほら、田村正和がさあ、学校の先生で。

高木・佐藤・井上 田村正和……。

佐藤 『パパはニュースキャスター!』!

加賀 それニュースキャスターでしょ!

佐藤 そっか……。

井上 『古畑任三郎』ですか?

加賀 だから先生だっつってんじゃないん。

高木 90年代だし……。

井上 そっか……。

佐藤 あっ、でも古畑任三郎、刑事ですよ! 刑事! 刑事ドラマ!

加賀 だから先生だっつってんじゃないん。学園ドラマだよ、学園ドラマ!

佐藤 そっか……。

加賀 田村正和が、学校の先生やってたやつ。なんだっけ……。

高木 学園ドラマでしたっけ?

加賀 思い出した! 『うちの子にかぎって』だ! 『うちの子にかぎって』!

高木 ああー……いや、でもそれじゃないと思うんですけどねえ……。

加賀 違う?

高木 はい。

加賀 じゃあ何よ?

高木 やっぱり刑事ドラマですよ。

加賀 つーかさあ、それが一体何なの?

劇団の電話が鳴る。

一同 !

高木 まだだ。

井上 もう出なくていいんじゃないですか?

高木 いやでも、そういうわけにもねえ……。

加賀 何?

佐藤 イタ電です。

加賀 ああー。

高木、恐る恐る電話に出る。

高木 (あからさまに不機嫌そうに) はい。劇団プッチンです……(急に声のトーンが明るくなり) あっ、どーもどーもお世話になっておりますー……

井上 (通話と同時に) 違ったみたいですね。

高木 ……えーえーえー……あーどうもありがとうございます！ いやープッチンも喜ぶと思います……ええ……はい、また連絡させていただきます……はい……はい……はーい。(電話切れる)

加賀 誰？

高木 早乙女亜由美さん。出演OKだって！

一同 おおー！

高木 良かったーチラシの入稿間に合う。

加賀 これで注目度も上がるね。

佐藤 お客様も倍になりますね！

加賀 倍どころか、5倍だよ。

佐藤 5倍？

加賀 あんた、早乙女さん、客何人呼ぶと思ってるの？

佐藤 えっ？ 100人くらいですか？

加賀 ブー！ 500人だよ、500人！

佐藤 ええー……。

加賀 去年、プッチンが演出した公演。

佐藤 紀伊國屋ホールの！

加賀 一人で500人呼んだらしいよ。

佐藤 すげえ。

高木 佐藤、前回の公演、何人だったっけ？

佐藤 えっ……それ聞きます？

高木 何人だったっけ？

佐藤 ……三人です。

加賀 三人！

高木 それでプッチンさんからビール瓶飛んで来たもんね。

加賀 っていうか、どうしたら三人しか呼べないの？ いくら何でも五人とか十人は呼べるでしょ。アタシなんて、黙ってたって、三十人くらいは予約入るよ。

佐藤 すみません。次は頑張ります。

高木 まあでも今回はキャパ少ないから、あんたが呼ばなくても、すぐ埋まつちやう
と思うけどねえ。

佐藤 まあでも、頑張ります。

加賀 これで借金なくなるといいなあ。

高木 あっ！ そしたら電話機も買い換えられる。

加賀 そうだねー。

高木 あっ、でも収益は全部寄付でした。

加賀 そっか……。

高木 早乙女さんもノーギャラですしね。

加賀 ああー……。

佐藤 あれ？ 文子、大丈夫？

井上 いや、なんか……。

佐藤 どうしたの？

井上 私の書くホンで早乙女さんに出ていただくなんて……すごいプレッシャーだ
なあって……。

加賀 大丈夫だよ。プッチンが演出するんだから。

井上 はあ。

高木 頑張ってるね。

井上 はい。

加賀 で、台本は……。

井上 ああ、一応、最後まで上げてきたんですけど。

加賀 おっ！

佐藤 早いじゃん。

井上 (カバンから台本を取り出して渡す) どうぞ。

佐藤 おおー。

井上 でもプッチンさんに何て言われるか……。

高木 (台本の表紙を見て) あれ？ タイトルってまだ仮なの？ これで決まったん
じゃなかったっけ。

井上 いや、ちよっとプッチンさんが渋ってて。

高木 ええー……。

加賀 また？

井上 このあとの読み合わせのあとに確定させるって。

佐藤 えっ？ 何がダメなの？

井上 ちよっと分かりやす過ぎるって。

高木 分かりやすくていいじゃん。『平和のためのリーディング NO WAR F
OR UKRAINE』。っていうか、分かりにくくしてどうすんの。

井上 もうひとひねりしたいって。

高木 ええー……もうー6時までだよ。入稿の時間。また一日ズレちゃうじゃん。

井上 すみません。

加賀 まあ、とりあえず読んでみるね。

井上 お願いします。

加賀と佐藤、台本を読み始める。

鈴木 あっ、今、打ち込み完了して、メールしてきました。

高木 あっ、ありがとう。早いね。(スマホでメールを確認して) うん、OKOK。

鈴木 そう言えば、劇団名……。

高木 あーあーあー……えつとー、どこまで話したっけ？

鈴木 刑事ドラマです、刑事ドラマ。

高木 あーあーあー……。

上手の入口から劇団員の宮野健太(俳優)が入ってくる。

宮野 おはようございます。

一同 おはようございます。

高木 あれ？ 宮野も呼ばれてんの？

宮野 あっ、はい。

高木 えっ？ 出るの？

宮野 いや、よく分かんないんですけど、なんかとりあえずいろって。

高木 チラシ名前載せてないよ。

宮野 あっ、はい。

高木 出すのかなあ。

井上 たぶん、スタンドインじゃないですか？

高木 ああー。

宮野 なんすか？ スタンドインって。

高木 あんた、スタンドインも知らないの？

宮野 はあ。

井上 代役だよ、代役。客演さん、稽古来られない日あるでしょ。

宮野 あーあーあー、代役すか。

井上 たぶんね。

宮野 あれ？ プッチンさんは……。

高木 まだ来てないよ。

宮野 ああー。(入口付近をキョロキョロ見渡す)

井上 電車が遅れてんだって。人身事故。

高木 何？ どうしたの？

宮野 っていうか、知ってます？

高木 何を？

宮野 劇団公転の主宰、訴えられたって。

一同 えっ？

加賀 湯川が？

宮野 はい。

高木 何で？

宮野 セクハラとパワハラとモラハラと、あとなんとかハラで。

加賀 ああー……。

佐藤 何それ、ハラメントのオンパレードじゃん。

加賀 あり得るね。

宮野 えっ？ レオナさん、知り合いなんすか？

加賀 知り合いも何も、大学の同期だよ。

宮野 あっ、そうなんすか？

加賀 うん。

宮野 じゃあ、プッチンさんも。

加賀 そう。

高木 えっ？ 誰が訴えたの？

宮野 なんか、やめた劇団員かなんかで、名前ちよつとよく分かんないんですけど、今までのこと全部、ブログとかで暴露してて、で、ツイッターとか大炎上してて。

佐藤 (スマホを見て) あっ、ホントだ。

高木 まあ、昔っから有名だからね、あの人の話は。あたしも、何人か知ってるもん。被害者。

宮野 そうなんすか？

高木 それで、あれだよ、オリピックの演出とか、候補に挙がってたらしいけど、外されたって言うからね。

宮野 へえー……。

加賀 今まで表に出なかったのが不思議なくらいだよ。

宮野 えっ？ プッチンさんとどっちがヤバイすか？

加賀 プッチンなんてまだカワイイ方だよ。まあ多少パワハラ気質なところはあるけど、セクハラっていうのないからね。

高木 そうですね。その辺はちゃんとしてますよね、プッチンさん。

加賀 女優には手出したけどね。

宮野 ダメじゃないすか。

加賀 まあでも責任取って結婚したから。

宮野 ああ。

高木 浮気とかも聞かないですもんね。

加賀 だけど、湯川はほんとヤバイよ。だからあたし辞めたんだもん。公転。

井上 えっ？ レオナさん公転の劇団員だったんですか？

加賀 昔ね。すぐやめたけど。

井上 そうだったんですねえ。

宮野 えっ？ どんな感じだったんすか？

加賀 えー……基本、女優には手当たり次第に手出すでしょ。キャスティングチラつかせて。

一同 ああー。

宮野 じゃあ、レオナさんも……？

加賀 ! (宮野をぶって) ……沸点も低くてさあ、すぐブチ切れるし。どこに地雷あるか分かんないから、周りにはみんな戦々恐々。それ踏んだらもう大変! 怒鳴り散

らすはモノに当たるは……とにかく誰も止められなくなるから。

一同 ええー……。

加賀 まあ、若い頃は結構イケメンだったし、才能もあるんだろうけどねえ。

高木 なんか賞とってましたもんね。

上手の入口から座長のプッチン中村が登場。

プッチン おはよう!

一同 おはようございます。

加賀 ちよつとプッチン、聞いた?

プッチン ああ、聞いた聞いた。事故物件ね。

一同 事故物件?

プッチン あれ? その話じゃないの?

加賀 事故物件ってどういうことよ?

プッチン 聞いてない?

加賀 聞いてない聞いてない。

プッチン いやさあ、実はこのビルがさあ、事故物件なんだって。

一同 ええー!?

高木 えっ? 事故物件って、何が起きたんですか?

プッチン 自殺だって。

一同 ええー……。

佐藤 どの部屋ですか?

プッチン 知りたい?

一同 はい。

プッチン (下手側の稽古場を指さす)

一同 ええー!?

井上 稽古場ですか?

プッチン そう。

高木 それいつの話ですか?

プッチン なんか、20年くらい前?

高木 じゃあ、うちらが入居する5、6年前か……。

プッチン 当時入ってた会社がすげえブラック企業で、その若い社員がさあ、長時間労働と上司のパワハラに耐えかねて……（首を吊る真似をして）ウエーー

一同 うわー!!

プッチン なんてね。

一同 ？

プッチン ウツソぴょん!

一同 ？

プッチン 冗談冗談!

加賀 何なの？

プッチン オマエら、今日何の日だよ。

佐藤 あっ、エイプリルフル!

一同 なーんだー……。

プッチン 引っかかったー!

加賀 ちょっとビククリさせないでよー。

プッチン ゴメンゴメン。まあ、事故物件っていうのはホントの話なんだけどね。

一同 えっ？

プッチン でもここじゃなくて、下の階。

高木 じゃ、事故物件じゃないですか。

プッチン あっ、そうだなあ。事故物件だなあ。

加賀 なんなの!?

高木 それ誰情報ですか？

プッチン 知り合いのライターがさあ、事故物件のこと書いてるらしくって、それでいろいろ調べてたら、このビルが出て来たんだって。

一同 へえー……。

プッチン だから近いうちに取材に来るかもしれないからさあ。

高木 そうなんですネ。

プッチン っていうか、それはさておいてさあ、公転の湯川。

加賀 あーあーあーあー、それさっきあたし言おうとした。

プッチン なんだ知ってんのかよ。

加賀 今さっき聞いた。

プッチン いつか、こういうことになるんじゃないかって思ってたんだよなあ。オレも散々忠告してきたんだけどなあ。金と女には気をつける。自分の感情をちゃんとコントロールしろ。絶対に怒っちゃいけないって。なのにダメだったなあ。

高木 まあ、最近多いですからね。そういうの。私達も、そうならないように、気をつけないと。

一同 うんうん。そうですね。

プッチン オマエらもさあ、まあオレもだけど、常に相手の立場を考えて、相手のことを尊重して、そうやってお互い気持ち良い関係を築いていけるようにね……でないと、ああやってロシアみたいに、平気で他国の領土を踏みにじって、人殺して……とんでもないよ。

高木 そうですね。

プッチン そういうわけで、我々劇団プッチンは、ロシアの侵略に抗議するために、戦争を止めるために、ウクライナの人々を救うために、平和のためのリーディングを行おうって、こういうわけだ。頑張っていこう！

一同 そうですね、そうですね。

プッチン うん！ で、台本だよ、台本。

井上 あっ、これです。(台本をプッチンに渡す) 一応、最後まで上がってます。

プッチン おおー。

高木 あっ、それから、プッチンさん。

プッチン ん？

高木 早乙女亜由美さん、出演OKになりました！

プッチン おおー！ よしよしよし……来てるよ来てるよ、オレたち来てるよ！ これでさらに憎きロシアに一撃お見舞いしたるって感じだな！ ハハハ……。

上手の入口から新人劇団員・瀬戸内海斗が息を切らせながら入ってくる。

瀬戸内 おはようございます。すみません。遅くなりました。

一同 おはよう。

プッチン あれ？ 新人が重役出勤ですか？ うん？ 随分、いい度胸してんなあ。

瀬戸内 いや、あの一、電車が人身事故で。

プッチン それは分かってんだよ。で、中野からメトロに乗り換えて来たんだろ。

瀬戸内 あっ、はい。

プッチン オレも同じ電車乗ってたから。

瀬戸内 あっ、そうだったんですか。

プッチン うん。で、オレはそのまま真っ直ぐここに来たけどさあ、みんな待たせて悪いと思っつからさあ。だけどお前、マック入ってっただろ。

瀬戸内 あっ、はい。

プッチン 何やってたんだよ、マックで。

瀬戸内 ちよつと朝から何も食べてなかったんで、昼飯を……。

プッチン 人待たせといて昼飯とかほざいてんじゃネエよ。このやろー!

瀬戸内 すみません。

プッチン 空腹だろうが何だろうが、新人が先輩待たせてんじゃねえよ!

瀬戸内 ホントすみません。

プッチン (台本で瀬戸内を叩きながら) 立場弁えろ、立場!

瀬戸内 はい。すみません。

一同 ……。

加賀 まあ、今度から気をつけよう。ねっ。

瀬戸内 はい。

プッチン とりあえず、稽古場の掃除しとけ。

瀬戸内 あっ、はい。

瀬戸内、下手のドアから去る。

プッチン (ガラツと明るくなって) はあー。新人教育っつーのは大変だなー。

一同 (苦笑もしくは愛想笑い)

加賀 辞めなきやいいけどね。

プッチン そんなんで辞めるヤツはいらねえよ。なあ佐藤。

佐藤 そうですね。

プッチン (宮野の足を軽く叩いて) お前、ちゃんと教育しとけよ。

宮野 あっ、はい。

プッチン よしっ、じゃあ、稽古場で読み合わせすっか。

一同 はい。

加賀、佐藤、井上、宮野、下手のドアから去る。

プッチン (鈴木のことを思い出そうとして) えーっと……。

高木 鈴木さんです。制作見習いの。

プッチン ああーそうだったそうだった。下の名前は？

鈴木 さくらです。

プッチン さくら。よしっ、じゃあ、これからはさくらって呼ぶから、頑張って！

鈴木 あっ、はい。頑張ります。

プッチン、下手ドアから去る。

高木 はあー。あっ、ゴメンね。ビックリさせちゃったね。

鈴木 いえいえ……。

高木 プッチンさん、時間と礼儀にだけはうるさいから。よくあることなのよ。

鈴木 でも、あの新人さん、大丈夫ですかね？

高木 瀬戸内君？

鈴木 はい。

高木 まあ、ああやってね、鍛えられていくから。

鈴木 だけど、こんな私みたいなペーペーが言うのも何なんですけど……。

高木 ん？

鈴木 今の、結構……アウトですよ。

高木 アウト？

鈴木 いや……怒鳴ったり、叩いたり、あと、「おマエ」って呼んだり。

高木 えっ？ 「おマエ」って呼んじゃいけないんだ。

鈴木 普通の企業だったら完全にアウトかなって……。

高木 そっか……気をつけないと。

鈴木 あと、名前を呼び捨てにするのも……。

高木 ダメなの？

鈴木 やっぱり「さん」付けが基本ですよ。

高木 そうなんだ……あたしも全然呼び捨てにしちやってるけど。

鈴木 それから

高木 まだあるの？

鈴木 女性の名前を下の名前で呼ぶとか。

高木 えっ？

鈴木 男性は名字なのに……。

高木 ああー……。

鈴木 ……あつ、なんかすみません。生意気言っちゃって。

高木 いやいやいや……。

鈴木 あつ、そういえば、劇団名！

高木 あつ、そうそう。ドラマだ、ドラマ！

鈴木 そのドラマが関係あるんですよ、劇団名と。

高木 あつ、いや……ドラマは関係なくて。

鈴木 えっ？ 関係ないんですか？

高木 ドラマっていうか、CMね。

鈴木 CM？

高木 うん。プッチンさんね、プッチンプリンのCMに出てたのよ。

鈴木 あつ、そうなんですね。

高木 うん！ それで、プッチンって言うんだって。

鈴木 あつ、そうだったんですね。

高木 そうそうそう。

鈴木 プッチンプリンだったんですね。

高木 うん。なんか、すごい引っぱった割には大したオチじゃなくてゴメンね。

鈴木 いえいえ。

高木 しかも、ドラマじゃないし。

鈴木 アハハハ……でもドラマも気になりますね。

高木 そう？

鈴木 はい。

高木 なんてドラマだったっけなあー。

鈴木 (スマホをかざして) 調べましょうか？

高木 いや……思い出すからちよっと待って。

鈴木 はあ……。

高木 ここまで出かかっているから。

鈴木 でも、プッチンプリンって考えると、すごいカワイイ名前ですよね。

高木 ああ、そうだね。

鈴木 プーチンとはエライ違いですね。

高木 うん。

瀬戸内の声 ああー!!

プッチンの声 あーあーあーあー何やってんだよ、バカヤロー!

瀬戸内の声 すみません!

高木・鈴木 ?

プッチンの声 すぐ雑巾持ってこい!

瀬戸内の声 はい!

下手のドアから瀬戸内が戻って来る。

高木 どうしたの?

瀬戸内 いや、コーヒーこぼしちゃって。パソコンに。

高木 あらから……。

瀬戸内 すみません。

瀬戸内、奥の上手側のドアから流しへ去る。

高木 大変だ……。

高木のスマホにLINEの通知音。

高木、スマホを手にして画面を見る。

高木 ええー!!!

鈴木 ?

高木 (スマホを見ながら) マジか……。

鈴木 えっ? どうしたんですか?

高木 いや……うちの元劇団員が、亡くなったって!

鈴木 ええ……。。

奥の給湯室から雑巾を持った瀬戸内が慌ただしく出てきて、下手の稽古場へ去る。

プッチンの声 早くしろよ!

瀬戸内の声 すみません! あー!!

劇団員たちの声 ああー!!

プッチンの声 おいおいおい……。

瀬戸内の声 すみません!!

スマホの計報に見入る高木と、瀬戸内を心配して稽古場の方を見る鈴木。

暗転

第二場

第一場から二日後の午後。

上手側のソファの付近で、リーディングに客演する女優・早乙女亜由美が台本を手にして稽古をしている。

その傍らに早乙女のマネージャー・久保渡が座っている。

早乙女 (リーディング台本の朗読) 国連憲章では、国家が武力行使できるのは自衛権の行使か、あるいは安全保障理事会が軍事的措置を認めた場合にのみ限られる。今回のウクライナ侵攻では、ロシアはウクライナから攻撃を受けていたわけではない。したがって自衛権の発動などではない。さらに安全保障理事会の承認も得られてはいなかった。以上のことから、国連憲章違反の暴挙であることは明白なのである。

早乙女、区切りの良いところでひと休み。

早乙女 どう？

久保 ええ、すっごい良いと思います。

早乙女 ホントに？

久保 はい。

早乙女 えっ？ どの辺が良いと思ってるの？

久保 あっ、いや……なんか、声も出ましたし、滑舌もすっごい良いですし……さすがプロだなって思いました。

早乙女 あのさあ……そんなこと聞いてんじゃないわよ。

久保 えっ？

早乙女 そんな……声出るとか、滑舌良いとか、素人か！ 何年やってると思ってるの？ 女優。

久保 えーっと……芸歴五十一年。

早乙女 バカッ！

久保 えっ？

早乙女 そうじゃなくて、本よ、本、台本。

久保 ああー……。

早乙女 どう思う？ これ。この台本。

久保 ああー、まあ……そうですね……ちよつと頭でつかちな感じがしますかね。

早乙女 だよね。

久保 はい。

早乙女 なんか、理屈っぽいついていうか、説明っぽいついていうか。

久保 ああー……。

早乙女 なんでプツンじゃないのよ、脚本……。

久保 それはホント、すみません。自分の確認不足で。

早乙女 もうー。(久保を睨む)

久保 ……。

早乙女 まあ、その平和のためのリーディングやるつていうね、その趣旨自体には賛同しますが、でももうちよつとマトモなホンにしてもらわないと。

久保 ああーまあーでもそこまで酷くは……。

早乙女 えっ？ ちゃんと読んだ？

久保 ああ、まあ、ざつくりとですけど。

早乙女 ざつくり？

久保 はあ。

早乙女 ざつくりじゃダメでしょ、ざつくりじゃ。今日から稽古なのよ。その台本よ。

隅々までじっくり読み込んでさあ、担当する俳優がちゃんと演じられるように、いろんな方向からサポートする、それがマネージャーの努めつてもんでしょ。

久保 すみません。

早乙女 少なくとも、福島ちゃんはそのくらいのは当たり前のようにやってくれてたけどねえ。なんで辞めちゃったんだろ……あつ、そうだ、『三人姉妹』読んだ？

久保 えっ……。

早乙女 『三人姉妹』、チエーホフの。

久保 あつ……。

早乙女 読んでないの？

久保 あつ、はい。

早乙女 言ったじゃない！ ここの劇団、こないだやったんだから『三人姉妹』だから読んでけつて。もうー失礼でしょ。これからお世話になる作家さん、演出家さ

ん、劇団さんに。

久保 すみません。

早乙女 まったく……入り時間の変更も把握してないし。

久保 ホントすみませんでした。

早乙女 何度も蒸し返すようで悪いけど、あり得ないからね。

久保 はい。

鈴木、奥の給湯室からお茶とお菓子を持って現れ、早乙女と久保に出す。

鈴木 あっ、どうぞ。

早乙女 あっ、すみません。お気遣いいただきちゃって。

鈴木 いえいえ。

久保 ありがとうございます。

鈴木 今さっき、出棺したみたいなんで、あと一時間くらいで到着すると思います
で。

早乙女 あっ、そうなんですね。

鈴木 ホントすみませんでした。直前の連絡になってしまっ

早乙女 いえいえいえ……それはしょうがないですよ。急なご不幸ですから。まあ、
ただ、メールだけじゃなくて電話もいただけた方が良かったかなあって……。 (久

保に) ねっ？

久保 ああ、そそ、そうですね。

鈴木 ホント申し訳ありませんでした。

早乙女 いやいやいや……ホントそんな、謝らないで。こう、待ってる間に稽古もで
きたし、全然問題ない。待つのも役者の仕事だから。

鈴木 はあ……。

早乙女 逆にお仕事のお邪魔じゃなかったかしら？ 早く来すぎちゃって。

鈴木 いえいえ、全然、大丈夫です。

早乙女 そうですか？

鈴木 ええ、お気になさらずに。

久保 すみません。

瀬戸内がやって来る。

瀬戸内 おはようございます。

鈴木 おはようございます。

久保 あつ、どうもおはようございます。この度は早乙女がお世話になります。

早乙女 早乙女亜由美です。

瀬戸内 えっ!?

早乙女 よろしくお願いします。

久保 マネージャーの久保と申します。

瀬戸内 早乙女亜由美さん!?

早乙女 はい。

瀬戸内 ああー! 自分、『西新井の女・ユキコ』あれ大好きで、いつも見させていた
だいてます!

早乙女 ああ、どうもありがとう。(久保に) えーっと……? (この方は?)

瀬戸内 あつ、あのー、(名刺を出して) 自分、新人の瀬戸内海斗と申します。

早乙女 あつ、新人さん。

瀬戸内 はい。

早乙女 おいくつ?

瀬戸内 二十歳です。

早乙女 二十歳!

瀬戸内 はい。

早乙女 いいわねえ。なんでもできるじゃない。何でも許されるし、失敗もいくらだ
ってできる! あつ、そういうえば、あたし、カズと出会ったの二十歳ん時だわ。

瀬戸内・鈴木 カズ?

早乙女 あつ、カズって和夫、プッチンのことね。本名、中村和夫。

瀬戸内・鈴木 ああー……。

早乙女 まだ彼が十歳くらいの時。映画で共演してね。

瀬戸内・鈴木 へえー……。

早乙女 『ひめゆりの塔』って、知ってるでしょ?

瀬戸内 『ひめゆりの塔』……。

早乙女 えっ? 知らない?

鈴木 あつ、私、知ってます。沖繩戦の映画ですよ。

早乙女 そうそうそう。あたしはそのひめゆり部隊の女学生役でね。カズは十歳年の離れた弟役。最後は二人とも集団自決で命を落とすんだけど……丸一ヶ月、沖繩と一緒に過ごして寝食も共にして、本当の姉弟みたいに過ごしたのよ。

一同 へえー……。

早乙女 そんな時のカズは、モンチツチみたいで可愛かったー。それがねえー、今や劇団の座長！ 一国一城の主！ 脚本書いて演出もしちゃう。おまけにNO WAR！ FOR UKRAINE！ やっぱりねえ、あたしもそうなんだけどね、あの映画が原点になってると思うのよ。戦争つてものがいかに悲惨か、罪のない住民がどれだけ犠牲になるか……もう今のウクライナ見てるといってもたつてもいられなくなつて……まあ、それでね、私も今回の趣旨に賛同して、加わらせていただくことになりましたんで、よろしくお願ひします。

瀬戸内・鈴木 よろしくお願ひします。

久保 あのー、亜由美さん、どうされます？

早乙女 ん？

久保 まだ時間ありますから、やっぱり先にお昼とられた方が……。

早乙女 ああー、そうねえ……そうする？

久保 はい。

早乙女 じゃあ、ちよつとご飯食べてきますね。

鈴木 あつ、はい、ごゆっくり。

早乙女 のちほど。

久保 失礼します。

瀬戸内・鈴木 (会釈)

早乙女と久保、上手の出入口から去る。

瀬戸内と鈴木、見送る。

瀬戸内 あつ、おはようございます。

鈴木 おはようございます。

瀬戸内 やっぱ、スゴイですね、オーラ。

鈴木 そうですね。

瀬戸内 でも、プッチンさんより年上なんですね。

鈴木 ああーそういえば……。

瀬戸内 プッチンさん五十くらいだから……。

鈴木 えっ？ じゃあ六十!？

瀬戸内 ってことですか？

鈴木 ええー!!

瀬戸内 全然見えませんね？

鈴木 40くらいだと思ってた。

瀬戸内 なんか、いろいろイジってんですかね。

鈴木 ああー……。

瀬戸内 ……。

鈴木 ……。

瀬戸内 他の人って、まだですよ？

鈴木 ああ、はい。あれ？ 葬儀、行かれなかったんですか？

瀬戸内 ああ、自分、松原さんと面識ないんで。

鈴木 そうなんですか？

瀬戸内 入った時には、もう辞めてましたから。

鈴木 ああー。

瀬戸内 ちようど入れ替えみたいな感じで……。

鈴木 なるほど……。

瀬戸内 はい。

鈴木 なんかでも、大変ですよ。

瀬戸内 えっ？

鈴木 瀬戸内さん。

瀬戸内 ああー……。

鈴木 すごい怒られたり、いっぱい働かされたり……。

瀬戸内 ホントっすよねえ。

鈴木 ちよつと、見ててどうなのかなって……。

瀬戸内 やっぱそう思います？

鈴木 はい。

瀬戸内 実は、マジちよつとむかっているんですけどね。

鈴木 あつ、そうなんですネ。

瀬戸内 まあ、ここだけの話ですけど。

鈴木 私もちよつと他にもいろいろ気になることがあって。

瀬戸内 へえー……。

鈴木 前勤めてた会社が、そういうコンプライアンスとかにすごいうるさいところで、まあ、それだからっていうのもあるかもしれないんですけど……。でもほら、訴えられたじゃないですか、知り合いの劇団さん。

瀬戸内 ああー……。

鈴木 自転でしたっけ？

瀬戸内 あつ、いや、公転、ですかね。

鈴木 公転……まあ、自転でも公転でもどっちでもいいんですけど、それで、今すごいじゃないですか、ツイッターとかで

瀬戸内 ああー……。

鈴木 ミートゥー、ミートゥーって、いろんな劇団とか演出家とか炎上してて。

瀬戸内 確かに……。

鈴木 ああいう風にならなきゃいいんですけど……。

瀬戸内 ああー……。

鈴木 あつ、なんか、ゴメンなさい。私みたいな新入りが……。

瀬戸内 いえいえ……。

鈴木 でも私、こないだ観た『三人芝居』がすごく面白くて、この劇団もつとろんな人に知ってもらいたくなって、そう思ってた……。

瀬戸内 ああー、そうなんですネー。自分、ここの芝居まだ観たことなくて。

鈴木 えっ？ そうなんですネ？

瀬戸内 面白いんですね。

鈴木 えっ？ 観たことないのに入ったんですか？

瀬戸内 ああ、はい。

鈴木 えっ？ 何で入ったんですか？

瀬戸内 ああ、あの一知り合いの紹介で。ほらプッチンさん、子役出身で、いろいろ繋がりあるじゃないすか？

鈴木 ああ、まあ。

瀬戸内 さっきの早乙女さんとか。

鈴木 そうですね。

瀬戸内 あと、プロデューサーとか演出家さんとか。

鈴木 ああー……。

瀬戸内 ここでいろんな人と繋がって、ゆくゆくは大河とか朝ドラとか、ああいうの
に出られたらなって。

鈴木 ああー……。

瀬戸内 まあなんで、それまでは修行つつーか、腰掛けつつーか。

鈴木 そうなんですわね……。

瀬戸内 自分、中学高校つてずっと野球部で、メチャ体育会系で、だからまあ、あん
なのまだまだ大したことないっすね。全然ちよろいっすよ。

鈴木 ああー……。

上手の出入口のドアをノックする音。

瀬戸内・鈴木 はい。

ドアが開き、ライターの寺本誠が入ってくる。

寺本 ゴメン下さい。

瀬戸内 はい。

寺本 劇団プーチンの方でいらっしやいますかね？

瀬戸内 いや……プーチンじゃなくてプッチンです。

寺本 あっ……プッチン……。

瀬戸内 はい。

寺本 あっ、失礼しました。

瀬戸内 あっ、はい。

寺本 私、ライターをやってます寺本と申しまして……。 (名刺を差し出す)

瀬戸内 ライター？

寺本 はい。

瀬戸内 あっ、あの自分、(名刺を出して) 劇団員の瀬戸内と申します。

寺本 ああ、ご丁寧……。

瀬戸内 何かあればよろしくお願いします。

寺本 はあ……あの、ちよつとおうかがいしたいことがあるんですけど、今よろしいですかね？

瀬戸内 ああ、何でも。何でも聞いて下さい。

鈴木 あつ、もしかして、事故物件のことですかね？

寺本・瀬戸内 事故物件？

瀬戸内 えっ？ 事故物件って……。

鈴木 あれ、知りませんか？ このビル、事故物件らしいですよ。

瀬戸内 えっ？！

鈴木 なんか、プッチンさんが言っていました。

瀬戸内 何があつたんですか？

鈴木 自殺者が出たって。

瀬戸内 マジですか？

鈴木 その取材か何かですよね？

寺本 ああ……。

鈴木 それだったら、ちよつと今、分かる者いないんですけど……。

寺本 あつ、そうなんですネ。

鈴木 すみません。

寺本 じゃあ、ちよつとまた出直してきます。

鈴木 あつ、はい。

寺本 じゃ、また。

瀬戸内 どうも。

鈴木 ご苦労様です。

寺本、去る。

瀬戸内 自殺って……えっ？ この劇団員がですか？

鈴木 ああーいやいや……劇団は関係なくて、昔ここに入ってた会社の人みたいで……。

瀬戸内 ああ……。

鈴木 (時間を見て) あつ、マズイ！

瀬戸内 ？

鈴木 私ちよつと、これ（DM）郵便局に出し行って来ますんで。（去ろうとする）

瀬戸内 ああ、はい。

鈴木 行ってきます。

瀬戸内 行ってらっしゃい。

鈴木、上手のドアから去る。

瀬戸内 はあー……事故物件かあ……。

瀬戸内、事務所を見渡す。

瀬戸内 はあ……掃除すつかー……。

瀬戸内、掃除用具を取りに奥の給湯室へ入っていく。

下手側の稽古場のドアがひとりでに開く。

明かり変化。

稽古場からスーツ姿の男が出てくる。

その男、そのままスーツと上手の方向に移動する。

上手側のドアがひとりでに開き、スーツ姿の男、そこから去っていく。

同時に下手側のドアもひとりでに閉まる。

明かりが元に戻る。

瀬戸内が給湯室から雑巾を持って出て来て、そのまま下手側の稽古場へ去る。

上手側のドアが開き、喪服姿の佐藤と井上が入ってくる。

佐藤 おはようございまーす……誰もいないか……。

井上 やっぱり私が原因ですよね？

佐藤 そんなことないよ。文子。

井上 私があんなこと言わなければ……。

佐藤 いや、文子は悪くないよ。オレがもつと早い段階で松原に本当のこと話してお

けば良かったんだよ。なのに、誤魔化して、勘違いさせて……結果として松原を傷つけてしまった。

井上 いや、私が、あんな酷いこと言ったから。

佐藤 しょうがないよ。あんな風にされたら、誰だってああなるよ。

井上 でももつと言いやうがあったと思うんですよ。なのに、つい感情的になって……私が私が……。 (佐藤の胸にすぎる)

佐藤 (井上を受け止め) 文子……。

稽古場から瀬戸内が出てくる。

見てはいけないものを見てしまい、即座に稽古場へ戻る。

井上 (佐藤から離れ) あっ、ゴメンなさい、こんなところで。マズイですね。

佐藤 ああ……まあ、オレたちにはどうすることもできなかった。誰が悪いわけでもないから……とにかく、文子は目の前の台本のことだけ考えてればいいから。いいホンを書く、それが今の文子にできることだから。

井上 はい。

プッチン、そのあとから高木がやって来る

プッチン おはよう！ あれ？

佐藤 誰もいないみたいですね。

高木 あれ？ 鈴木さーん。

あとに続いて、加賀、高木、宮野がやって来る。

おのおの事務机やソファに座ったりする。

稽古場から瀬戸内が出てくる。

瀬戸内 おはようございます！

一同 おはよう。

佐藤 あっ、いたんだ……。

瀬戸内 あの、稽古場の掃除しました。

佐藤 ああ、お疲れ様。

高木 鈴木さんは？

瀬戸内 あつ、今、郵便局行ってます。

高木 ああー。

瀬戸内、会釈して奥の給湯室に雑巾を洗いに入っていく。(その後、稽古場へ移動する)

プッチン さすがに疲れたなあ。

加賀 ホントだねえ。

宮野 なんか、飲みたいっすね。

加賀 このあと稽古だよ。

プッチン なんて稽古にしちやったかなあ。

宮野 やめます？

高木 ダメだよ、早乙女さん来るんだから。

宮野 そっか。

加賀 今三時半かあー。

井上 五時から始めますよね？

プッチン うん、だって亜由美さんにそう伝えてるんだろ？

高木 はい。そのはずです。

プッチン じゃあ、予定通りだよ。

加賀 なんかでも、やっぱり稽古って気分じゃないよね？

宮野 まあ……葬式のあとすからねえ。辞めた劇団員とは言え……。

プッチン なんて死んじやったかなあ。

宮野 ホントっすよねー。

加賀 27だっけ？ まだまだ人生これからなのよねー。

宮野 やっぱ、自殺ってことっすよね？

一同 ……。

宮野 遺書とかってないんすかね？

一同 ……。

プッチン まあでも、辞める前からちよつと不安定だったからなあ。

佐藤 確かに……。

宮野 そういえば、折込のチラシ、松原さん、丸ごと駅のゴミ箱に捨てちゃったとかありましたよね？ 折り込みしないで。

加賀 ああーあつたあつた！ 折込事件。

宮野 それで高木さんにすげー怒られて……。なんか、イスぶん投げてませんでした？

高木 だって、チラシ二千枚だよ、二千枚！ そりゃあブチ切れるよ。

プッチン でもまさか、それが原因ってわけじゃないだろ。

一同 ああー……。

宮野 あの公演の時はずっとおかしかったっすからねえ。

加賀 お客さんも全然呼ばなかったしね？

宮野 あっ！ そうそう、ゼロですよゼロ！ 佐藤さんより呼べないって、ありえないっすよねえ。

佐藤 ああーまあ……。

加賀 まあ、あの時はあたしもかなりキツク言っちゃって、机ひっくり返しちゃったりしたけど……。

プッチン まあ、でもそんなんが原因でもないだろ。

一同 ああー……。

宮野 本番もヤバくなかったっすか？

加賀 ヤバかったヤバかった！ セリフがところどころ出てこなくてさあ、あたし何回フオローしたか……。

プッチン まあ、オレもそれで相当キツイこと言って、灰皿も投げたけどさあ、でもまあ、それが原因ってわけでもないよなあ。

一同 ああー……。

宮野 まあ、いつものことすからね。

プッチン そんなんでいちいち死なれたら、劇団員が何人いても足りなくなっちゃるよ。

宮野 いやだから、もうその時点でおかしくなってたんすよ。

加賀 まあねえー……もうちょっと気づいてあげられれば良かったのかもしれないけど。

宮野 誰が悪いつてわけでもないっすよ。

一同 ああー……。

プッチン だけど、そもそもなんであんなおかしくなっちゃったんだろうなあ。

一同 ……。

プッチン まあ、考えてもしょうがない。松原が戻ってくるわけじゃないし。うん。とりあえず、次のこと考えよう、次のこと。

一同 (口々に) そうですね。

井上 あつ、あのー台本はあれで大丈夫ですかね？

プッチン ああ、良くなった良くなった。ちよつと感情的だった部分がさあ、だいぶ抑えられてて、すごい整理されて良くなったと思うよ。

井上 そうですね！

プッチン (劇団員たちに) 良くなったよな？

一同 (口々に褒める)

プッチン まあ、あとは稽古場でやりながら、修正していきければいいよ。

井上 はい！ ありがとうございます！

高木 そろそろみんな着替えた方がいいんじゃない？

プッチン おっし！ 稽古稽古！ 準備準備！

一同 (口々に) ああー、そうだね、そうだね。

高木を除く劇団員はそれぞれ着替えに動く。

加賀と井上は奥の給湯室へ。

佐藤と宮野は下手の稽古場へ。

プッチンはその場で着替え始める。

佐藤と宮野と入れ替えて、瀬戸内が稽古場から戻ってくる。

鈴木が戻ってくる。

鈴木 あつ、おはようございます。

一同 (口々に) おはよう。

鈴木 (高木に) 今、DM出して来ましたんで。

高木 ありがとう。何か変わったことなかった？ イタ電とか。

鈴木 あつ、そういうえば、イタ電かどうか分かんないんですけど、なんか、ピーヒョロヒョロみたいなの、そういう音だけで切れちゃったのがあったんですけど。

高木 えっ？ それFAXだよ。

鈴木 FAX？

高木 うん。

鈴木 ああー。

高木 (電話機を見て) えっ？ 届いてなかった？ FAX。

鈴木 いや、特に何も届いてないと思うんですけど。

高木 あれー……。

鈴木 すみません、知らなくて。

高木 あれえー……やっぱ買い換えた方がいいかなあ。

瀬戸内 あっ、あと、(寺本の名刺を出して) なんか、こういう方が来られましたけど。

高木 (名刺を見て) フリーライター……。

鈴木 あっ、多分、事故物件のことだと思っんですけど。

プッチン あっ、神田来た？ 神田。

高木・鈴木・瀬戸内 神田？

プッチン ライトターの。

瀬戸内 いや、寺本って方なんですけど。

プッチン 寺本？

瀬戸内 はい。(プッチンに名刺を見せる)

プッチン (名刺を見て) 知らねえなあ。

高木 代理の人とか？

瀬戸内 ああ……。

鈴木 あっ、あと、早乙女亜由美さん、いらっしやいました。

プッチン えっ？ 亜由美さんが!?

高木 (プッチンと同時に) えっ？ 早乙女さんが!?

鈴木 今、お昼食べに出られています。

高木 えっ？ 何時くらいに来たの？

鈴木 一時ちよつと前くらいに。

プッチン 早いな。

高木 えっ？ ちゃんと、伝えてくれたよね？ 変更の件。

鈴木 ああ、一応、メールしておいたんですけど、なんか、マネージャーさんがそれ

見逃してたみたいで。

プツチン おいおいおい……。

高木 あれ？ 電話しなかったの？

鈴木 夜遅かったんで。電話よりメールの方がいいかなって……。

高木 なんですよ。ダメだよ。緊急なんだからさあ、そういう時はメールじゃなくて電話しないと！

プツチン だんだな。

鈴木 すみません。

高木 だいたい、返信なかったんでしょ。

鈴木 はい。

高木 だったら、今日の朝とか電話すれば良かったじゃない。

プツチン だんだな。

鈴木 すみませんでした。

高木 もうー……。

鈴木 ……。

高木 まあ、私が任せっぱなしにしたのも悪かったんだけどさあ。

プツチン でも高木も、ほら、葬儀のお花のこととか、いっぱいいっぱいだったんだから、しょうがないよ。さくらも、今度から気をつけよう。なっ！

鈴木 はい。ホントすみませんでした。

この頃には劇団員たちは戻ってきている。

上手の出入口から早乙女と久保が戻ってくる。

早乙女 ただいまー。

プツチン あっ！ 亜由美姉さん！

早乙女 カズ！

プツチン いやー、この度はよろしくお願いします。

早乙女 こちらこそ！

一同 おはようございます。

早乙女・久保 おはようございます。

高木 なんか、入り時間ちゃんと伝わってなかったみたいで、申し訳ありませんでし

た。

プッチン ホント、すみません。

鈴木 すみませんでした。

早乙女 いいのいいの、気にしないで。そんなことより、カズ。

プッチン はい。

早乙女 ちょっと相談。

プッチン えっ? 何ですか?

早乙女 台本のことなただけだよ。

プッチン 台本……。

早乙女 (周りを気にして) ちょっとここだとなんだから……。

プッチン あっ、稽古場で話します?

早乙女 いや……あそこなんか、ちょっと空気悪くない?

プッチン えっ?

早乙女 さっきあそこで稽古してたらさあ、すっごい咳き込んだりして。

プッチン あららら……。

早乙女 で、うちの久保もさあ、なんか「感じる」って言うのよ。

プッチン 感じる?

久保 いや、あのー、ちょっと体がなんか若干重くなったような気がしまして……。

一同 えっ?

高木 体調大丈夫ですか?

久保 いや、今は大丈夫なんですけどね。あそこだとなんだか……。

早乙女 だからその辺のカフェとか。

プッチン ああ、じゃあ、そうしましょっか。

早乙女 稽古前にゴメンね。

プッチン いえいえ。

早乙女 じゃあ、ちょっと一旦出ます。

プッチン、早乙女、久保、上手から去る。

高木 そんな空気悪いかなあ。

瀬戸内 ちゃんと掃除してるんですけどねえ。

高木 ええー……。

高木、稽古場へ入って行く。

瀬戸内、そのあとを追う。

加賀 何だろう、台本の相談って。

宮野 なんか、クレームとかすかね？

佐藤 でも台本の話するなら、文子も行った方がいいんじゃない？

井上 ああー……。

加賀 あつ、そうだね。

井上 じゃあ……。

文子、上手のドアを開けて出ようとするが、立ち止まる。

井上 あつ、でも、その前にちょっとLINEで聞いてみます。必要かどうか。

佐藤 必要に決まってんじゃない、作家なんだから。

井上 まあ、とりあえず……。

井上、スマホでLINEを送る操作。

高木と瀬戸内、稽古場から戻ってくる。

高木 そこまでじゃないんと思うんだけどねえ。

瀬戸内 ですよね。

加賀 なんか、アレルギーなんじゃない？ 亜由美さん。

高木 ああー。

加賀 やっぱ空気清浄機買った方がいいかもね。

高木 ああ……お金がねえ……。

宮野 でもなんか、感じるつつつてましたよね。マネージャー。

加賀 ああー……。

宮野 なんか、いるんじゃないすか？

高木 はあ？

加賀 何が。

宮野 いや……首吊った……20年前の……。

瀬戸内 あっ！ 事故物件のですか？

宮野 そうそう！

高木 はあ？

加賀 ちよつとやめてよ。

そこへ喪服を来た桜井正道がやって来る。

桜井 すみません。

高木 あっ、はい。

一同 ？（誰？）

桜井 あのー、こちら、松原キクオ君のいた劇団ですよね？

一同 えっ？

高木 はい、そうですけど……。

桜井 あのー自分、松原君の高校の同級生で、桜井と申します。

高木 同級生……。

桜井 愛媛の高校で、私は今も愛媛なんですけど、訃報を聞いて駆け付けまして、先ほどの葬儀にも参列していました。

高木 あっ、そうなんですネ。

桜井 皆さんお見かけして、声かけようと思ったんですけど、うまくタイミングが合わなくて……。

高木 ああー……。

加賀 あの、何か……。

桜井 あっ、あのー、松原って、亡くなる直前までこの劇団に所属していたわけですよ？

加賀 まあ、ひと月ほど前に辞めましたけど……。

桜井 それはどういった事情で……。

加賀 えっ……。

桜井 どうして劇団辞めたんですかね？

加賀 ああー……。

桜井 その、劇団を辞めたことと、松原が命を絶ったことと、何か関係があったりってことはないんですかね？

加賀 いやー……。

桜井 知ってることがあったらぜひ教えていただきたいなって……。

高木 あのーすみません。ご家族の方でもないわけですし、無闇にそういうことは……。

桜井 ああー……そうですね……そうですね……。

高木 すみません……。

桜井 でもあのー、自分、松原とはバレエ部で一緒にして、自分も松原もバレエやるには背が低かったんで、セッターかりベロかって感じで、同じポジションで結構一緒に過ごすことが多くて、背丈と同じで割と物事を見る目線も一緒に……それですごい気が合って、仲良くなって……ご存知かと思いますが、ヤツ、子供の時の事故ですごいやケドを負って、そのあとが上半身にずっと残ってて、少し後遺症もあって、それが少しハンディではあったんですけど、人一倍努力家で、そういう自分がどうしたらバレエが上手くなってレギュラーに獲れるのかって、いつもそのこと真剣に考えてて、それでヤツ、二年生の時に見事、レギュラーの座を勝ち取って……なんでお前、そんな上手くなったんだよ、秘訣は何なんだよって、一度聞いたことがあって、そしたらヤツ、才能は分析できるんだよ、上手いやツのことをよく観察して、なんでそいつが上手くやれるのか、そこをしっかりと分析して、その通りそれを実直に実践すればいいんだよって……。それで自分もそういう風に心がけるようになって、でも自分はバレエではレギュラーにはなれなかったんですけど、その後いろんな局面で松原の言葉を思い出して、そうしたらいろいろうまくいくことも多くて……高校を卒業して、松原は東京の大学に、自分は地元の大学にそれぞれ進学して、お互い距離は離れましたけど、僕の中にはいつでも松原がいて、松原が僕を励まして、勇気づけてくれて、離れてもずっと強い絆で結ばれていて……ヤツはそのあと演劇と出会って、俳優を目指すってなって、ああーそしたら高校の時みたいによー努力して才能ある役者さんをすごい分析して、きつとそれで成功する、いずれ大河とか朝ドラとか、そういうのにもきつと出るようになるんだろうなって。それで地元で公演しに来た時には、デカイお花出して祝ってやろう！ってそう思っていました。それなのに、なんで、そんな松原がなんで自分で命を絶つことになったのか、僕にはどうしても納得できません！ だからお願いします！ 分か

ることがあったら、手がかりになるようなことがあったら何でも教えて下さい。お願いします！

加賀 お話はよく分かりました。でも私達にもよく分からないんですよ。私達の劇団に何か原因があったのか、あるいはなかったのか、あったとしたらそれは何なのか、私達が知りたいくらいなんです。

桜井 ……そうなんですネ……なんか、急にすみませんでした。失礼します。

桜井、去る。

加賀 ……なんなの？

井上のスマホにLINEの通知音

井上 あっ……。

佐藤 プッチンさん？

井上 はい。

佐藤 なんて？

井上 とりあえず、待機してろって。

佐藤 そっか。

上手の出入口から寺本がやって来る。

寺本 すみません。(鈴木を見つけ) あっ、先ほどの……。

鈴木 あっ、どうも。

寺本 あっ、そういえば、さっきの事故物件の話、ホントみたいですね。

鈴木 ああー。

寺本 なんか、首吊りがあったらしいじゃないですか。

鈴木 ええ、まあ。

寺本 相当ブラックだったみたいですね。

鈴木 はあ……。

寺本 まあ、その件はいいんですけど、いらっしやいますかね？ 詳しい方。

鈴木 (高木に) さっきのライターの方です。

高木 あのー、事故物件の話ですよ？

寺本 いや、そうじゃなくて。

高木 えっ？

寺本 劇団公転ってご存知ですよ？

高木 あっ、はい。

寺本 その代表の方が、訴えられたのって、ご存知ですかね？ セクハラとかパワハラで。

高木 ああー、はい。

寺本 で、こちらの中に、その公転の劇団員だった方がいらっしやるってうかがったもので……。

高木 ああー……。 (加賀に視線を向ける)

加賀 ……。 (すっとぼける)

宮野 あっ！ レオナさんじゃないすか、レオナさん。元劇団員。

加賀・高木 !

寺本 あっ、そうなんですわね。

加賀 …… あっ、はい……。

寺本 じゃあ、ちよつと、その実態についてどうだったか、取材させていただきませんかねえ。

加賀 ああー……。

寺本 あとそれから、今、ちよつとネットで騒ぎになってるかと思うんですけど、演劇関係者のハラスメントについても……。

加賀 いや、あのー、私はそこまで詳しくなくて……うちの主宰のプッチンっていうのが、公転の主宰と大学の同期なんで、そっちの方がよろしいんじゃないかなって……。

寺本 ああ、じゃあ、その方は……。

高木 今あいにく出てまして……。

寺本 いつ戻られます？

高木 いやー今日戻るかなあ……。

上手入口からプッチンが戻ってくる。

プッチン ただいまー。

劇団員たち あっ……おかえりなさい……。

井上 台本、どうになりました？

プッチン すまんが、大幅に書き直す。

劇団員たち ええっ!？

井上 何が問題だったんですか？

プッチン 詳しくはこのあとの稽古で話すよ。

早乙女と久保も戻ってくる。

早乙女 ごめんなさいねー。いろいろうるさく言ってしまった。でも、やるからには素晴らしいリーディングにしたいじゃない？ だから諦めずに、イイ本になるように最後まで粘って粘って頑張りましょう！

劇団員たち はあ……。

B r i d g e

サイレントで寺本がプッチンに挨拶をし、取材のお願いをしている図。

暗転

第三場

第二場から数十分後。

上手側のソファの付近で、プッチン、早乙女、加賀、佐藤、井上、宮野が台本を手にして稽古をしている。

その傍らに久保と瀬戸内が座って見学をしている。

佐藤 (リーディング台本の朗読) 今回のロシアの暴挙を見て、我々は既視感を覚えざるを得ない。いや、そのことを思い出さなければならないのではないだろうか。そう、2003年3月、アメリカとイギリスが始めたイラク戦争のことである！

早乙女 (朗読を止めて) はいはいはいはい……。まずはここよ、ここ。ここでわざわざイラク戦争にまで触れなくてもいいんじゃないかしらねえ。

一同 ああー……。

井上 ……。

早乙女 そもそもね、このリーディングの一番の目的って何かしら。

一同 ああー……。

早乙女 目的よ、目的。

プッチン えーつとですねえ……。

早乙女 カズはいいから。

プッチン ……はあ……。

早乙女 作者の井上さん、あなたに聞いているのよ、あなたに。

井上 あつ、はい。

早乙女 私達は何のためにリーディングやるの。

井上 ロシアの侵略に抗議して、戦争を止めるためです。

早乙女 そうね、うん、で、それは何のため？

井上 えっ……。

早乙女 何のために戦争を止めるの。

井上 ああー……。

プッチン えーつとですねえ……。

早乙女 だからカズじゃなくて。

プッチン はい……。

井上 これ以上、犠牲者を増やさないため……。

早乙女 でしょ？

井上 はい。

早乙女 そういうことでしょ！ ロシア軍による無差別攻撃、女性に対する性暴力、そして一般市民に対する目を覆うような虐殺の数々……何百人、いや何千人っていう市民が何の罪もないのに犠牲になっているこの状況、それを一刻でも早く止めたい！ そこでしょ、一番大事なのは。

井上 はい。

早乙女 だったら、このイラク戦争とか、パレスチナ紛争とか、そこまで話を広げることはないんじゃないかしらねえ。すごい説明っぽくなってるし、ちよつと焦点がぼやけちゃってる感じがするし、これじゃああんまりうまく伝わらないと思うのよねえ。

井上 はあ……。

早乙女 他の方、どう思うのかしら。ベテランの加賀さんとか。

加賀 ああーそうですねえ。確かに、イラク戦争とか、若い世代だと分からないかもしれないですねー。

早乙女 そうよねえ。(瀬戸内に) どう？ 若い子。

一同 ？

早乙女 あなたあなた、新人さん。

瀬戸内 えっ？

プッチン 瀬戸内！

瀬戸内 僕ですか？

早乙女 そうよ、一番若い子。

瀬戸内 あっ、ああー……。

早乙女 いいのよ、思ったこと言って。新人だからって遠慮することはないわよ。

瀬戸内 はあ……。

プッチン いいから。何でも言ってみる。

瀬戸内 はあ……あのー、イラク戦争って何ですか？

一同 えっ？

プッチン お前、イラク戦争知らないのか！

瀬戸内 はい……。

一同 ええー……。

早乙女 やっぱり知らないかあ。だって『ひめゆりの塔』も知らなかったしね。

瀬戸内 すみません。

プッチン ああー『ひめゆりの塔』懐かしいですねー。

早乙女 (久保に) あなたは分かるわよね。

久保 えっ？

早乙女 イラク戦争。

久保 ああー……あれですよ？ あのー、ニューヨークで飛行機がビルに突っ込んでった……。

瀬戸内 あっ、あれがイラク戦争なんですか？

一同 いやいやいや……。

早乙女 それは同時多発テロ！ 911！

久保 あっ！ そっか……。

早乙女 もうー！

佐藤 そのあとにアフガン戦争があって、それからイラク戦争。

久保・瀬戸内 ああー……(?)

佐藤 2002年とか3年あたりのことね。

瀬戸内 あっ、自分、生まれたくらいですね。

一同 ああー……。

加賀 確かに、そう考えると、ちよつと盛り込みすぎかもしれないですね。

早乙女 でしょ！

加賀 ええ。

井上 ……。

プッチン まあ、文子も頑張って書いてくれたとは思っただけど、亜由美さんの言うように、もつとシンプルに、今の状況がどれだけ悲惨か、それをどうすれば止められるのか……うん……(宮野に) なんかないのか。

宮野 えっ？

プッチン なんかいアイデア。

宮野 アイデアすか？

プッチン うん。戦争を止めるための。

宮野 そうっすねー……やっぱプーチン暗殺とか。

一同 えっ？

宮野 あっ、あと、モスクワに核落とすとか。

一同 ……ええー……。

早乙女 はあ？！

一同 ？

早乙女 お前、もう一回言ってみろ！

宮野 えっ……？

早乙女 今言ったこともう一回言ってみろっつってんだよ！

宮野 いや……。

早乙女 暗殺とか、核とか！ なんてこと言うんだ！

宮野 さささ、さーせん。(すみません)

早乙女 あたし達はさあ、人を殺さない、殺し合わない、そのためにこのリーダーイン
グやるんだろ！！ なんでそんなこと言うんだよ！ バカヤロー！！(宮野をぶつ
たたく)

宮野 痛っ！ 痛っ！

早乙女 この！ この！

プッチン 亜由美さん！ 亜由美さん！ 落ち着いて！

プッチンら、早乙女を止める。

声を聞きつけて、下手の稽古場で作業をしていた高木と鈴木が出て来る。

みんなで早乙女をどうにか制止する。

宮野 さささ、さーせん(すみません)！

早乙女 二度とそんなこと言うな！ 人の命を軽々しく見る人間が、命の尊厳に想像
が及ばない人間が、ミサイルとか爆弾とか、平気で人の頭に落としたりしてんだ
よ！

宮野 はい、さーせん。

プッチン ホント、すみませんでした！

早乙女 ……ったく……。

プッチン (宮野に) お前、ちょっとあっち(稽古場)行ってろ。頭冷やしてろ。

宮野 はい……。

宮野、下手のドアから稽古場へ去る。

高木と鈴木、宮野を気遣いながら一緒に去る。

プッチン うちの若いのが、ホントすみませんでした。

早乙女 ……私もなんかカツとなっちゃって……ゴメンね。

プッチン いえいえ……。

佐藤 あのー。

一同 ？

佐藤 お言葉ですけど、暴力は……。

早乙女 はい？

佐藤 ロシア軍の暴力が、侵略が、許されないのと同じように、今のもどうなのかなって……。

早乙女 ……。

プッチン 佐藤……。

佐藤 いやあの……別に、早乙女さんを責めるわけじゃなくて……実は、今回の台本にイラク戦争のこととか盛り込んだ方がいいって言ったの、僕なんです。

一同 えっ……。

佐藤 ロシアのウクライナ侵攻が許されないなら、20年前のアメリカのイラク侵攻だって許されないんじゃないかって……。だって、イラクに大量破壊兵器なんてなかったんですから、それなのにそういうのデッチ上げて、それでブッシュはイラクに攻め込んで、多くのイラク人が命落として……。しかも、それを日本は支持して……。だけど、あの時、爆弾の下にいるイラク人のこと、どれだけ私達想像しましたかね……。今のウクライナと同じようなこと起きてたのに、ロシアとアメリカ、同じようなことしてたのに、私達、アメリカのこととどれだけ非難したかって……。イラクの人たちを救おうって、どれだけの日本人が行動したかって……。なんか、すごいフェアじゃない気がするんですよ。

早乙女 そりゃ、ごもつともだけど……。そんなことは分かってるけど……。私だって、あの時は反対したし、国会にだって行ったし、まあ、それでちよつと干されちゃったりしたけど……。だけど……。だけど、今はそんなこと蒸し返してる場合じゃないでしょ。だいたいあの時は共和党だし、今、民主党なんだから……。もう、そんなこと

じゃなくて、今起きてること、それを止めないとでしょ！それが一番大事でしょ！

よ！
佐藤 ……。

プッチン まあ……そうですね……。

早乙女 ……確かに、暴力はよくなかった……それは謝ります。ゴメンなさい。

佐藤 でもホント、早乙女さんを責めてるわけじゃないんで……。

早乙女 ……ちよつと、私も頭冷やしてくるわ。

プッチン・久保 あつ、はい。

早乙女、上手の出口へ向かう。

久保もあとに続く。

早乙女 あつ、悪いけど、ちよつと、一人にさせてもらっていい？

久保 あつ、はい。

早乙女、去る。

久保 あつ、ホントお騒がせしてすみませんでした。

プッチン いやいやいや……こちらこそ……ちよつと、あいつバカなんで……。

久保 ケガとか、ないですかね？

プッチン ああ、大丈夫ですよ。

久保 ちよつと、(宮野の様子を見に行つて) よろしいですかね？

プッチン ああ……。

久保 すみません。

久保、下手の稽古場へ去る。

プッチン はあ……ちよつとひと休みすつかー。

一同 (口々に) ああーですねー。

プッチン (瀬戸内にお金を渡して) お前、ちよつとコンビニでなんか買ってこい。

瀬戸内 あっ、はい……何がよろしいですかね。

プッチン なんかも適当に菓子とか飲み物とか。

加賀 あっ、あたし○○○（商品名）がいいなあー。

瀬戸内 あっ、はい。

加賀 よろしく。

瀬戸内 行ってきます。

一同 （口々に）行ってらっしゃーい。

瀬戸内、上手の出入口から去る。

加賀 しかしまあ、亜由美さん凄かったね。

プッチン まあ、反戦とか平和とか、人一倍思いが強いからな。あいつ（宮野）が地

雷踏むから。

加賀 プーチン暗殺は分かるけど、さすがに核はねえ……。

佐藤 いや、暗殺だってよくないですよ。

加賀 ああー……。

井上 台本、どうしましょう。

プッチン まあなあ……。

佐藤 ゴメン。オレが余計なこと言ったから。

井上 いえいえ……。

加賀 しかし、イラク戦争知らないのは、ちよつとビックリだよねえ。もうそんな時代なんだね。

井上 私がそういう若い世代にも伝わるように、もっと上手く書いてれば……。

佐藤 いや、オレが無理矢理盛り込ませようとしたのが悪かったんだよ。混乱させてゴメン。

加賀 まあ、でも、知らないんだったら、むしろをそれを伝えるっていうのは大事なことだとは思うんだけどねえ。でもやっぱり盛り込みすぎなのかなあ。

プッチン そうだなあ。

加賀 それよりあたし気になるのがさあ、（台本を開いて）この24ページ目の、「本当に市民の命を守るといふのであれば、降伏というのも一つの選択肢ではないだろうか」っていうこの部分。

井上 ああ、はい。

加賀 これはちよつと踏み込みすぎじゃないのかなあ？

井上 ああー……。

プツチン あつ、それも言ってたよ、亜由美さん。

加賀 侵略したロシアが悪いのに、これじゃあ、なんかまるでゼレンスキーにも問題があるみたいな感じじゃない？ ロシアを利用するっていうか……。

佐藤 いや、でも、僕はそこところはいいと思うんですけどね。

加賀 なんて？

佐藤 だって、市民の命を守るってことを一番に考えたら、そこは大事な視点じゃないのかなあ……。

加賀 だけどさあ、降伏するつつたつて、相手はロシアだよ。何されるか分かんないし、どこ連れてかれるかも分かんないし。

佐藤 でも戦前の日本だって、鬼畜米英って教え込まれて、なんでしたっけ？ 生きて……えー……生きて……。

プツチン 生きて虜囚の辱めを受けず。

佐藤 そうですね、そうですね。それで降伏できなくて、自決とかせざるを得なくなつて……。

プツチン 確かに、そんなセリフあったな、『ひめゆりの塔』に。「捕虜になったら、辱めを受けて戦車に轢き殺される。だから絶対に捕虜にはならない。自決しよう！」つて。それでみんな追い詰められて……。

佐藤 けど実際はそんなことなかったんじゃないですか？ むしろ捕虜になった人は助かつて、チョコレートとかもらつたりして。

加賀 でもそれはアメリカだからじゃない。ロシアだったらそうはいかないでしょ。シベリア抑留とか。あれも結構な人なくなつてるわけでしょ。

プツチン ああー確かにそうだよなあ。

佐藤 でも少なくとも降伏した時点では命は助かつてたわけじゃないですか。

加賀 でも相手がナチスだったらどうすんのよ。ユダヤ人だったらガス室送りだよ。ガス室送り。

プツチン ああーそうだよなあ。

加賀 そもそもさあ、自分に置き換えてみたらどうよ。

佐藤 えっ？

加賀 いきなり他国が攻め込んできてさあ、家爆撃されて、家族とか周りの人も殺されて、住む場所なくなつて。そんなんで降伏なんてできる？ あたしだったら、徹底抗戦するけどね。

佐藤 いやまあ、気持ち的にはそうかもしれないよ。だけど、そんな風について感情的になつちゃうからこそ、僕はちよつと冷静になつて、命を大事に、国や領土を守るよりも、逃げて生き延びてつて、そう呼びかけるべきなんじゃないかって……。

プツチン だけど、一度獲られた領土をさあ、取り戻すのは大変だぞ。北方領土だってそうじゃん。

加賀 そうだよねえ。

佐藤 でも命は助かるじゃないですか。

加賀 だから助からないかもしれないでしょ。ガス室に送られるかもしれないでしょ。

佐藤 それはちよつと極端じゃないですか？ ナチス出すのは。

加賀 だって実際にあつたことじゃん。

佐藤 まあ……それも分かりますけど……なんだろうなあ……少なくとも、逃げたり降伏したりする自由っていうのは認められるべきなんじゃないかって……。

プツチン えっ？ どういうこと？

佐藤 だって、ウクライナじゃ18歳から60歳まででしたっけ？ 男性が出国禁止になつてるじゃないですか。

プツチン そうなんだ。

佐藤 それつて、国のために戦うことをなんか強制されてるわけですよ。僕はそういうのはちよつとどうかなつて、自分だったらイヤだつて……。そういう個人の意志はやつぱ尊重してもらいたいなつて。

プツチン ああーまあなあ……。。

加賀 そりゃ個人の意志は大事だとは思うけど……。

プツチン そういうのも分かるけど……お前でも、亜由美さんにそれ絶対言うなよ。これで亜由美さんが降りるなんてことになつちやつたら……。

加賀 そう！ やつぱそこだよねえ。これで亜由美さんが降りちやつたりなんかしたら……。

高木 (稽古場から戻つてきて) えっ？ 早乙女さん降りるんですか？

プツチン・加賀 いやいやいや……。

高木 ああ、ビックリした。

プッチン そうならないようにさあ、どうするかってことだよ。

高木 ちよつとうまくやって下さいよ。早乙女さん出なかったら、赤字かトントンですからね。寄付金どころじゃないですよ。

一同 ああー……。

加賀 そうそう寄付金、寄付金!

プッチン だからやっぱり、亜由美さんの言うとおり、シンプルに行こうシンプルに。

井上 はあ……。

佐藤 えっ? 文子、お前、本当にそれでいいの?

井上 まあ、皆さんがそう言うなら……。

佐藤 でもさあ、お前の台本だろ。早乙女さんとか、そんな人の顔色ばつかうか? てないでさあ、文子の書きたいこと、表現したいことをさあ、もつと出していかないと!

加賀 だったらさあ、もつとお客呼びなよ。三人とか、全然説得力ないよ。

佐藤 それとこれとは……。

加賀 関係あるよ。あたし達がいくら立派なこと言ったところで、所詮、ウクライナの人たち救えるのはさあ、少なくともあたし達にやれることはさあ、より多くの寄付金を集めること、それでしょ。それが大事でしょ!

プッチン そうだなあ。

佐藤 ……。

井上 ちよつとあたし、一旦出てきます。

一同 ああー……。

井上、上手から出ていく。

佐藤 文子? 文子?

佐藤、文子を追って上手から出ていく。

加賀 ちよつと言い過ぎたかなあ。

プッチン あいつら、まさかつき合ってるわけじゃないよな?

加賀 えっ?

高木 ……。(にやける)

宮野の声 ちよつと、大丈夫すか？

一同 ？

下手の稽古場からフラフラの久保が出てくる。

そのあとから宮野と鈴木が心配そうに追ってくる。

その背後からスーツ姿の男(桜井とそっくり)が出てくる。

明かり変化。

久保 (膝に手をついて) すみません。ちよつと気分が……。

高木 (イスを出して) 大丈夫ですか？

久保 いや、ちよつとやっぱり、あそこいるとなんか体が……。

宮野 なんか、感じるんすか？

久保 いやー……。

久保、スーツ姿の男に気づき、身構える。

久保以外にスーツ姿は感じられない。

久保 あっ！

一同 ん？

スーツ姿の男、そのまま上手側にスーツと移動する。

久保、スーツ姿の男を追う。

劇団の固定電話が鳴る。

一同 あっ……。

高木、電話に出る。

高木 はい、劇団プッチンでございます……もしもし？ もしもし？
一同 ？

みんなが電話に気をとられている間に、上手のドアがひとりでに開き、スーツ姿の男がそこから去っていく。

久保だけがそれを見ていた。

高木、黙って受話器を置く。

明かりが元に戻る。

一同？

高木 あつ、FAX。

一同 ああー。

高木 あれ？ あれれ？

鈴木 どうしたんですか？

高木 流れてこない。FAX。

鈴木 ええっ？

高木 あれえー……。 (FAX機を確認する)

プッチン ん？ (FAX機を見に行く)

高木 紙はあるよなー……。

プッチン なんかランプ付いてるぞ。

高木 えっ？ なんだろ……。

その間、久保、先ほどのスーツ姿の男のことが気になり、上手のドア付近へ。

宮野 大丈夫すか？

久保 いや、今あの、男の人が……。

宮野 男の人？

久保 いましたよね？ 男の人。

宮野 えっ？

久保 あれ？

宮野 えっ？

久保 あれえ？ (上手のドアを開けて) あれ？

一同 ん？

その間、高木とプッチンはFAX機をいろいろといじる。
最終的にプッチンがFAX機を叩くと、「ピーッ」という音がしてFAXが動き始める。

プッチン おっ！

鈴木 動きましたね。

高木 すごい、プッチンさん。

プッチン こういうのはなあ、叩けば直るんだよ。

FAXが受信を始める。

一同 おおー！

高木 あっ、受信してる受信してる！

加賀 直ったみたいね。

鈴木 こうやって受信するんですね。

高木 初めて見た？

鈴木 はい。なんか、すごいアナログですね。

高木 だってアナログだもん。

鈴木 あっ、そうですよね。

高木 (受信FAXを見て) えっ……？

鈴木 どうしたんですか？

プッチン どっからだよ、FAX。

高木 いや……。

高木、受信したFAXをプッチンに渡す。

プッチン (FAXを見て) 松原から！？

一同 えっ！？

久保以外、FAXの付近に集まる。

プッチン、FAXに目を通し、周囲を確認し、鈴木と久保がいることを確認す

る。

プッチン ちよつと、劇団員、稽古場（に集合）。

劇団員たち はい。

劇団員たち、下手の稽古場へ移動する。

高木 あつ、鈴木さん、今日はもうこれでいいよ。

鈴木 あつ、はい。

高木 明日またよろしく。

鈴木 あつ、はい。お疲れ様でした。

高木 お疲れ様。

高木も稽古場へ去る。

鈴木、帰り支度をするが、具合が悪そうな久保が気になる。

鈴木 大丈夫ですか？

久保 ああー……。

鈴木 水飲まれます？

久保 ああー。

鈴木 （頷いて奥の給湯室へ入っていく）

久保 すみません。

久保、下手側のドア付近まで移動し、中の様子を少し窺う。

その間、上手のドアから桜井が入って来る。

久保が振り返ったら桜井がいた。

久保 ああー!!!

鈴木、給湯室から出てくる。

鈴木 あっ……。

桜井 こんにちは。

鈴木 こんにちは……あっ、あのー、少々お待ち下さい。

桜井 あっ、はい。

鈴木、下手の稽古場へ入っていく。

桜井 先ほどかがったものなんですけど。

久保 ああー……。(桜井から逃げようとする)

桜井 あっ、いらっしやいませでしたかね？

久保 ああーはあ……。

桜井 あの、自分、松原キクオ君の高校の同級生の桜井と申しまして……。 (久保が

距離をとるのでその分久保に近づく)

久保 はあ……。

桜井 先ほどの葬儀にも参列してまして……。

久保 ああー……。

桜井 あれ？ 松原のことご存知ですよ？

久保 いや、ちよつと自分、劇団のものじゃないんで……。

桜井 あっ、そうなんです？

久保 すみません……。

桜井 えっ？ なんで逃げるんですか？

久保 いや……。

桜井 あなた、何か事情ご存知なんじゃないですか？

久保 えっ？

桜井 あなた何か知ってるでしょ！

久保 いや……。

桜井 どうして松原、劇団辞めたんですか？

久保 えっ？

桜井 なんで松原は命を絶ったんですか？

久保 いや……。

桜井 教えて下さい！ なぜ松原が死ななければならなかったのか！

久保 うわー！ー！！

久保、上手の出入りから去る。

桜井、久保を追って去る。

下手の稽古場から高木と鈴木が出てくる。

高木 あれ？ いないじゃん。

鈴木 あれえ？

上手の出入口から佐藤が戻ってくる。

佐藤 お疲れ様です。

高木 あっ、おかえり。あれ？ 文子は？

佐藤 カフェで、台本練り直してます。

高木 あっ、そうなんだね。あっ、鈴木さん、ホントもういいよ。

鈴木 ああ、はい……。

高木 ゴメンね。お疲れ様でした。

鈴木 お先に失礼します。

高木・佐藤 お疲れ様。

鈴木、上手から去る。

佐藤 あれ？ みんなは。

高木 稽古場なんだけどさ。

佐藤 ああ。

高木 あのさあ。

佐藤 はい。

高木 FAXが届いててね。

佐藤 FAX。

高木 松原から。

佐藤 松原から！？

高木 うん。

佐藤 えっ? いつですか?

高木 さつき。

佐藤 さつき?

高木 うん。

佐藤 えっ? ということですか? まさか、あの世から?

高木 いやいや……おそらく、死ぬ間際に送ってきたんだと思うんだけど、日付が一

昨日になってたから。

佐藤 ああ……。

高木 ただ、あのFAX機調子悪くて。

佐藤 はあ。

高木 で、さつきプッチンが叩いたらそれが出て来てさ。

佐藤 えっ? 心霊現象?

高木 いやいやいや……たぶん、本体のメモリに保存されてたのが出て来たと思うん

だけど。

佐藤 ああ、なるほど……えっ? で、何なんですか? そのFAX。

高木 それがね。

佐藤 はい。

高木 ちよつと、遺書めいたものが書いてあつてさ。

佐藤 えっ? なんて書いてあつたんですか?

高木 ……佐藤と文子のこと。

佐藤 えっ……。

高木 松原、文子に告つたらしいじゃない。

佐藤 ああ……。

高木 で、当然ながら、フラれて。アンタたちのこと知って……。

佐藤 ああ……えっ? それが原因なんですか? 松原の……。

高木 いやまあ、そう断定はできないけど……。

佐藤 えっ? そのことがFAXにまんま書いてあつたんですか?

高木 うん。

佐藤 えっ、じゃあ、みんな、僕と文子のこと……。

高木 うん。

佐藤 マジか……。

瀬戸内がコンビニの買い物袋をぶら下げて上手から戻ってくる。

瀬戸内 戻りました。

高木 あっ、お帰り。

佐藤 お帰り。

高木 (買い物袋は)そこ、置いといていいよ。

瀬戸内 はい。

瀬戸内、買い物袋を上手側のローテーブルに置く。

瀬戸内 (手紙を出して)あと、これ、下のポストに入ってたんですけど。

高木 ああー。(手紙を受け取り、差出人を見て)……?!……。

佐藤 ?

瀬戸内 あっ、ちよつと、トイレ行って来ます。

高木 ああ、うん。

瀬戸内、奥のトイレへ去る。

佐藤 誰からですか？

高木、手紙の差出人を佐藤に見せる。

佐藤 (差出人を見て)えっ……松原!?

高木 シーツ!

佐藤 あっ……。(口を押さえる)

高木、手紙の封を開けて手紙を取り出し、それを見る。

高木 あっ、さっきのFAXと一緒に……。

佐藤 えっ、そうなんですか？

高木 (手紙がもう一通あり) でももう一通ある。(佐藤に一通目を渡す)
佐藤 もう一通？(一通目を受け取る)

高木は二通目に、佐藤は一通目にそれぞれ目を通す。

瀬戸内、奥からこっそり覗き見ている。

佐藤 うわっ、マジか……。

高木 ええー……。

佐藤 あっ、そっち(二通目)は……。

高木 こっちはFAXきてない。(二通目を渡す)

佐藤 あっ、そうなんですか？(二通目を受け取る)

高木 うん。

佐藤、二通目の手紙を読み始める。

高木、FAX機の周辺を探す。

高木 あれえ……ないよなあ……。

高木、ダメ元でFAXを叩いてみるが、特に反応はない。

佐藤、二通目の手紙を読み終える。

佐藤 ええー……そういうことか……。

高木 おかしいなあ……。

佐藤 えっ？ だとしたら、プッチンさんが原因……。

高木 うーん……。

佐藤 僕と文子じゃないってことですよね？

高木 いやでも、あんたらのことがあつてのことだからねえ……。

佐藤 ああー……えっ？ プッチンさん、このこと知ってるんですか？

高木 いや、FAXしか見てないからねえ、一枚目の。

佐藤 ああー……。

高木 ちよつと、悪いんだけど、佐藤。

佐藤 はい。

高木 この手紙のこと、しばらく黙っててもらってもいい？

佐藤 ああー……分かりました。

高木、手紙を封筒に入れ、それを事務機の引き出しの中にしまう。

高木 とりあえず、(稽古場)行こっか。

佐藤 えっ……ああー……はい。

高木と佐藤、下手の稽古場へ去る。

奥の給湯室から瀬戸内が出て来る。

瀬戸内、下手側のドアに近づき、稽古場の様子を窺う。

FAX機から「ピーッ」という音がして、そのあとFAX受信の動作音。

瀬戸内 ?

瀬戸内、流れてくるFAX(手紙の二枚目と同じ内容)を手にとって見る。

瀬戸内 ええー……。

上手の出入口から鈴木が戻ってくる。

瀬戸内 !?

鈴木 お疲れ様です。

瀬戸内 ……。

鈴木 あっ、ちよつと、忘れ物……。

瀬戸内 ああ……。

鈴木 えっ? どうしたんですか?

瀬戸内 いや……これ……。 (と、鈴木に二枚目のFAXを見せる)

鈴木、FAXを受け取り、それを読む。

鈴木 ええー……。

瀬戸内 あつ、あと、手紙も……。

鈴木 手紙？

瀬戸内、引き出しの中から手紙を見つけ、それを鈴木に見せる。

瀬戸内 ほら。

鈴木、瀬戸内から手紙を受けとり、差出人を確認して驚く。

鈴木 ああー……。

瀬戸内 これ（二枚のFAX）、どうしましょうねえ。

鈴木 ……。

瀬戸内、困惑する鈴木を見ながら、イタズラっぽくほくそ笑む。

暗転

第四場

第三場から数日後。

上手側のソファの付近で、早乙女と劇団員たちが写真撮影をしている。撮影しているのは久保で、早乙女のスマホのカメラを使用している。

久保 はい、皆さん、笑ってー。いきますよー。ハイチーズ。(撮影)ありがとうございます。
います。

早乙女 どうもありがとうございます。

久保 (スマホの画像を見せて) どうですかね？

早乙女 あっ、いいんじゃない。うん。いいと思う。

久保 はい。

早乙女 じゃあこれ、ブログに上げて宣伝しとくから。

一同 ありがとうございます。

早乙女 今、カズにも送っておくから。(スマホを操作する)

プッチン ありがとうございます。これ、ツイッターとかに上げちゃっても大丈夫ですよね？

早乙女 もちろんよ。

プッチンのLINEの通知音

プッチン あっ、今来ました。(と、そのままSNSに投稿する操作)

高木 ホント、ありがとうございます。チケットもすっごい売っていただいて。

早乙女 いえいえ、当然のことよ。

高木 おかげさまで、売り切れ間近のステージもありまして。

早乙女 えっ、まだ売り切れじゃないんだ。

高木 そうですね、まだちょっとだけ余裕ありますね。

早乙女 でもあと5日ですよ。この時点で余裕あるのはちょっとまずいわね。

高木 ああー……。

早乙女 ちよっと知り合いのプロデューサーとかにも話しておくわね。

プッチン すみませんねー。

早乙女 いいのいいの、せっかくここまでみんなで一緒になって創り上げてきたんだから、台本もすっごい良くなったし、ねえ。

井上 あつ、ありがとうございます。

早乙女 もう入りきれないくらいお客さん呼ばないと。ねっ！

一同 (口々に) そうですねー！

早乙女 頑張りますよう！

一同 はい！

早乙女 じゃあ、あとは前日のリハーサルで。

プッチン はい、よろしく願います！

一同 よろしく願います！

早乙女 あつ、そういえば……(カバンから一冊の本を取りだし) 瀬戸内君……。

プッチン (稽古場に向かって) 瀬戸内！ 瀬戸内！

下手の稽古場から瀬戸内が出てくる。

瀬戸内 あつ、はい。

早乙女 これ、(本を渡し) こないだ言ってた。

瀬戸内 ああー！ ありがとうございます！

早乙女 よく読んで勉強するのよ。

瀬戸内 あつ、はい！

早乙女 期待してるわよ。新人君！

瀬戸内 頑張ります！

早乙女 じゃ、お先に！

久保 失礼します。

一同 お疲れ様でしたー！

早乙女と久保、上手の出入口から去る。

劇団員たち、瀬戸内がもらった本に注目する。

加賀 何それ？

瀬戸内 ああ。(本を加賀に渡す)

加賀 (瀬戸内の本を見て) 『俳優修業』。へえー……。

プッチン スタニスラフスキーかあ……昔読んだなあ。

佐藤 あつ、僕も持つてましたよ。スタニスラフスキー。

宮野 なんすか？ スタニスラフスキー？（言えてない）

プッチン バカだなあ。

宮野 えっ？

佐藤 スタニスラフスキー。

宮野 なんすかそれ。

佐藤 ロシアの演出家。

宮野 またロシア？

加賀 けどすごいねー、亜由美さんからこんな貰うなんて。

プッチン 贅沢だなあ。

瀬戸内 いや、お借りしただけなんで……。

一同 ふーん……。

瀬戸内 あつ、ちょっと、仕舞ってきます。

瀬戸内、下手の稽古場へ去る。

プッチンのスマホの通知音が鳴り、プッチン、スマホを確認する。

プッチン おっ、さすが亜由美さんが写ってる写真は反応がいいな。

プッチン、スマホを見ると、次から次へと通知音が鳴る。

プッチン おっ、おっ……。

宮野 凄いつすね。

上手のドアをノックして、寺本がやって来る。

高木 はい。

寺本 こんにちは。

高木 ああ、こないだの。

寺本 あつ、先日はありがとうございました。

プッチン いえいえいえ……なんか、大したこと話せなくて、すみませんでしたね。

寺本 いえいえいえ……まあ、すごい近い間柄ですからねえ、プッチンさんと湯川さん。いろいろしがらみもあるでしょうし、それはしょうがないですよ。

プッチン はあ……。

寺本 まあ、被害者の方からはいっぱいお話聞きましたんで、プッチンさんのお話も聞けて、バランスっていう意味でも大変参考になりましたんで……。

プッチン ああ、それなら良かったです。あつ、どうぞ、おかけ下さい。

寺本 あつ、よろしいですか？

プッチン ええ、どうぞどうぞ。ちょうど稽古終わったところなんで。

寺本 あつ、そうなんです。ああー、じゃああの、実はもう一人……。 (来てまして)

プッチン もう一人。

寺本 はい。(外に向かって) あつ、どうぞ。

桜井が入って来る。

桜井 こんにちは。

一同 あつ……どうも……。

桜井 先日、お邪魔しました。桜井と申します。

高木 (プッチンに) 例の同級生の……。

プッチン ああー……。

寺本 よろしい、ですかね？

プッチン ああー、どうぞどうぞ。(ソファに案内する)

寺本 失礼します。(ソファに腰掛ける)

桜井 失礼いたします。(ソファに腰掛ける)

プッチン おい、さくら、お茶。

鈴木 あつ、はい。

プッチン で……。

寺本 ああ、あのー、今、例の劇団公転の問題との絡みで、いろんな劇団の、そういうハラスメントについても取材してまして。

プッチン はあ。

寺本 で、たまたまそのタイミングで松原さんが亡くなられて、でちよっと、こちら

の同級生の桜井さんからもいろいろとお話をお聞きしまして……。
プッチン ああー。

寺本 何か劇団内でそういうトラブルとかあって、あったりしなかったんですかね？

プッチン ああーまあ、細かいことはそりゃいっぱいありますよ。

寺本 例えば。

プッチン ああー、いや……。

加賀 ちよつとおかしかったんですよ。

寺本 おかしかった？

加賀 公演の前とか、担当してた裏方の仕事まったくしてなかったり、お客さん全然呼ばなかったり、本番中もセリフとか段取りとか忘れて芝居が止まりそうになっちゃうったり、それでみんな割と困ってて……。

宮野 あと、宣伝用のチラシを駅のゴミ箱に捨てちゃったりとかね。

加賀 ああー。

宮野 二千枚ですよ、二千枚！

加賀 あったあった。

宮野 なんかやっぱちよつと、変だったんすよ。

寺本 何か、思い悩んでいたりとか？

プッチン ああーまあー強いて言うなら、恋愛沙汰ですかね？

寺本 恋愛沙汰？

プッチン あのー松原、一方的に思いを寄せてた女性がいたみたいで。

寺本 はあ。

プッチン まあ、相手はうちの劇団員なんですけどね。

寺本 ああ。

プッチン で、そいつに松原、告白したらしいんですよ。

寺本 はあ。

プッチン でも、そいつ、実は別の劇団員とつき合ってた。

寺本 ええー……。

プッチン うち、劇団内恋愛禁止なんですけどね、どうも隠れてつき合ってたらしくって。

寺本 ああー……。

佐藤・井上 ……。

プッチン で、そのこと松原知らなくて、まあ、内緒でつき合ってるわけですから、当然なんですけどね。

寺本 まあそうですね。

プッチン で、告白して。

寺本 ああー。

プッチン で、ご存知かもしれませんが、松原って子供の頃の事故でヤケドの痕が残ってますから、そういうのもあって非常に奥手で、まったく女性経験もなくて、おそらく、そういうことって初めてだったんじゃないかなって思うんですね。

寺本 ああーなるほど。

プッチン でも、何かいい感触があったんでしようね。意を決して告白して……でも、実はその女には彼氏がいたと。しかも同じ劇団員だったと。

寺本 ああー。

プッチン ショックだったでしょうねえ。

寺本 そういうことですか……。

プッチン ですから、考えられるとしたら、それが一番大きいのかなあ……。

桜井 えっ？ 他にはないんですか？

プッチン 他？

桜井 その恋愛以外に。

プッチン 他は特には……。

井上 すみません。私が、私が、松原を追い詰めて……。

寺本 ああー……。 (そういうことね)

佐藤 ……。

加賀 まあ、でも文子が悪いわけでもないでしょ。

宮野 そうすつよねえ、松原さんも劇団内恋愛しようとしてたわけだし。

加賀 あっ、そうだよねえ、うん、じゃあ、しょうがないよ。

プッチン だから劇団内恋愛禁止にしたんだけどなあー。

桜井 でも他にも何かあるんじゃないですか？

プッチン えっ？ 何かって……えっ？ 何が言いたいんですか？

桜井 松原の、遺書があるって聞いたんですけど。

一同 えっ……。

プッチン ああー……なんでそれを。

寺本 あのーちよつと、匿名なんですけど、そういう情報が寄せられたもので
プッチン へえー、そうなんですよね……。 (と劇団員達へ不信の目を向ける)

桜井 あるんですよね？ 松原の遺書。

プッチン ああ……。まあ……。

桜井 じゃあそれ、見せていただけませんか？

プッチン ああ……。……。

桜井 お願いします！

プッチン でも、今お話したそのまんまですけどね。

寺本・桜井 えっ？

プッチン (高木に) ちよつと、持って来て。

高木 いや、でも……。

プッチン いいから！

高木 ……あつ、はい。

高木、事務機の引き出しの中からFAXを取りだしプッチンに渡す。

プッチン (寺本にFAXを渡して) どうぞ。

寺本と桜井、FAXに目を通す。

寺本 あれ？ これって、本物ですか？

プッチン 本物ですよ。

寺本・桜井 ええっ？

プッチン FAXで送られてきましたね。遺書がFAXだなんて……。

寺本 あのー、もう1枚あるんじゃないですか？

プッチン もう1枚？

桜井 あと手紙も。

プッチン 手紙？ そんなの届いてないよなあ。

加賀 うん、知らない。

宮野 知らないっすね。

高木・佐藤・瀬戸内・鈴木 ……。

桜井 本当にご存知ないんですか？

プツチン 知りませんよ、そんなの。

桜井 じゃあ、単刀直入にうかがいます。

プツチン はあ。

桜井 松原がなくなった原因、それ、あなたにあると思われませんか？

プツチン はっ？

桜井 あなたが松原に言った言葉、松原に吐いた暴言、それが松原を死に追いやった

と思いませんか？

プツチン ちよつと落ち着いて下さいよ。

寺本 まあまあ……。

プツチン 暴言つて……そりゃ、時にはね、厳しい言葉で叱咤激励するようなことは

ありましたよ。だけど、それは劇団主宰とか演出家とか、そういうのの範疇ですし、

そうやって芝居はつくられていくもんですし、松原もそれを理解してたでしょうし、

そういうのが松原を死に追いやったなんて、そんなことはないでしょう。なあ。

加賀・宮野 ああー。

宮野 いやーホントおかしかったんすよ、松原さん。

プツチン・加賀 そうそう。

桜井 じゃ、なぜおかしくなったんですか！

プツチン だから、恋愛だって言ってるでしょ。失恋して、それに絶望して。

桜井 それだけじゃないでしょ！

プツチン 他に何があるって言うんですか！

寺本 あのー、画像があるんですよ。

一同 えっ……。

プツチン 画像？

寺本 もう1枚の、遺書の。

プツチン・加賀・宮野 ええっ？

プツチン なんですか、それ。そんなものあるなら見せて下さいよ。

寺本、カバンの中からもう1枚の遺書が印刷された紙を取りだし、それをプツ

チンに見せる。

プツチン、遺書を読む。

加賀と宮野、それを覗き見る。

プッチン・加賀・宮野 ええー……。

プッチン えっ……なんですか、これ。こんなもの、届いてないですよ。こんなもの、造じやないですか？ フェイクですよ、フェイク、フェイクニュース！

鈴木 あります。

一同 えっ？

鈴木 現物、あります。

高木 鈴木さん……。

鈴木、事務機の引き出しから手紙を取り出し、寺本に渡す。

鈴木 これ、松原さんからの手紙です。

桜井 ああー！

桜井、手紙を受け取り、中身を確認する。

桜井 (手紙をプッチンに示して) ほら、あった！ 画像と同じ、2枚目！

プッチン ……そんなの、今初めて知りましたよ。えっ？ 高木、知ってたのか？

高木 あっ、あの……すみません。リーディングが終わって、落ち着いたら話そうと
思っていました……。

宮野 っていうか、なんでその画像、外に漏れてんすか？

加賀 あっ、そうだよねえ。それどういうこと？ っていうか誰？

一同 ……。

プッチン さすがに高木じゃないよなあ。

高木 いや、私じゃ……(ない)。

プッチン まさか、カップルじゃないよなあ？

佐藤・井上 えっ？

井上 そんな……そんなことするわけないじゃないですか！

佐藤 僕も違います！

宮野 あとそれから、ここに写ってるのって、FAXっすよね。手紙じゃなくて。

加賀 あつ、ホントだ。

宮野 これの現物って、どこあるんすか？

プツチン そうだそうだ！

宮野 二枚目のFAX。

プツチン 誰が持ってんだ、誰が……（瀬戸内に）瀬戸内、お前か！

瀬戸内 いやー……。

プツチン じゃあ、さくら、お前か！

鈴木 はっ？

桜井 そんなことどうだっていいじゃないですか！！

一同 ……。

桜井 これ、よく読んで下さい！ あなたのことが書かれてるんですよ！ あなたのことが！ あなたが、居酒屋で、松原に何て言ったか！ 「早く彼女でもつくって、童貞捨てる！ 無理なら風俗でも行ってこい！」 失恋して思い悩む松原に、優しい言葉を、いたわる言葉をかけることもせず……ハンディを負った松原に、あなたは……あなたは、なんてことを！

プツチン えっ？ それですか？ そんな、居酒屋で酔った勢いで、半分冗談で言った言葉が松原を殺したんですか？ 私なんですか？ 原因。

桜井 そうでしょ！

プツチン ええー……私はただ、松原を励まそう、元気づけよう……頑張って生きていこう！ って、そういうつもりで、松原のためを思って言ったのに……えっ？ そんなんで死にます？

桜井 死にますよ！ 松原は死んだんですよ！ あなたの言い放った心ない言葉で！

プツチン ええー？ なんでそれで死ぬかなあ……。

桜井 あなたがどういうつもりで言ったのか、そんなことは問題じゃない！ 相手がそれをどう受け取るか、どう感じ取るか……なんでもっと、松原の気持ちに寄り添ってくれなかったんですか？ そうしてくれれば、それがあつたなら……松原は……松原は……。

プツチン それじゃあもう、何も言えないじゃないですか！ 居酒屋で酔ったりできないじゃないですか！ えっ？ 居酒屋って何なんですか！？ 何のためにあるんですか、居酒屋！！

一同 ……。

寺本 居酒屋は、みんな楽しく飲む場所ですね。

一同 ……。

鈴木 私、辞めさせていただきます。

高木 えっ…：鈴木さん……。

鈴木、荷物をまとめる。上手の出口へ向かう。

鈴木 短い間でしたけど、お世話になりました。リーディングのご成功、お祈りします。

鈴木、上手の出口へ向かう。

高木 えっ、ちょっと……。

鈴木 あっ…：…（立ち止まり）画像送ったの、私じゃありませんから。プッチン えっ……。

鈴木 お疲れ様でした。

一同 ……。

瀬戸内 あっ、自分も……。

一同 えっ。

瀬戸内、荷物をまとめ、上手の出口へ向かう。

そしてふと思い出し、カバンの中からFAXを取りだして、それをローテーブルの上に置く。

一同 ん？

瀬戸内 あっ、FAXです。2枚目の。

一同 えっ!？

瀬戸内 どうも、すみませんでした。失礼します。

瀬戸内、逃げるように上手の出口から去る。

寺本 (二枚目のFAXを手を取って) 現物ですね。

プッチン ……。

高木 あのー実はそれ、メールでも届いていたんです。

一同 えっ!？

高木 同じものが、劇団のアドレスに、二枚とも。

一同 ええー……。

高木 だけど、それ、迷惑メールに振り分けられてて、で、昨日それに気づいて……。

寺本 FAXに、手紙に、メールもですか……。しかも、よりによって、迷惑メールとはねえ……。

劇団員たち ……。

桜井 平和のためのリーディング、ですか？ その前に、まずは、身近なところを平和に、身近な人を幸せにしてはどうでしょうかねえ。相手を思いやって、互いに尊重し合って……そうすれば、誰も傷つけず、誰も傷つかず、みんな平和に、穏やかに、楽しく、暮らしていけるのになあ……。

劇団の電話が鳴る。

高木が電話に出る。

高木 はい、劇団プッチンでございます……いや、あの、プーチンじゃなくて……いや……プーチンです。

一同 えっ!？

高木 劇団、プーチンです。私達は劇団プーチンです。この度は、ご迷惑をおかけして、たくさんの人を傷つけてしまって、本当に、本当に、申し訳ありませんでした！

桜井、スーッと下手側へ移動する。

下手側のドアがひとりでに開き、桜井はそこの中へ消えていく。

暗転

第五場

第四場から数週間後。

舞台奥の中央の棚の上に小さなフレームに入った松原の遺影がある。

早乙女と菓子折を持った久保が、プッチンと対面している。

プッチンの後ろに加賀、高木、宮野がいる。

全員、マスクをしている。

久保 本当に、申し訳ありませんでした！

プッチン いやいやいや……。

高木 なんか、具合悪そうにしてみましたもんね。

早乙女 まさかねえ、新型の感染症だなんてねえ……。

久保 皆さんにも移してしまって、公演も中止になってしまった……マネージャーとしてホント失格です。なんとお詫びしたら良いものやら……ホントすみませんでした。

劇団員たち いやいやいや……。

早乙女 ホントにゴメンなさい。

プッチン そんな、しょうがないですよ、こういう状況ですから。まあ、無事に生還されて良かったです。

久保 はあ……。

早乙女 皆さんは大丈夫なんですか？ もう体調よくなられたんですか？

プッチン ええ、おかげさまで全員隔離期間終えまして。

高木 症状もそんなに重くなくて。

宮野 あっ、でも自分はかなり高熱出ましたけどね。40℃近く。

早乙女 あらー……。

プッチン バカは風邪ひかないって言うけどな。

加賀 プッチン。バカって言っちゃダメよ、バカって言っちゃ。

高木 そうそう、そうですよ。

プッチン あっ、いかんいかん。ハラスメント、ハラスメント。でもこれ何ハラだ？

加賀 さあ？

早乙女 あと、もう一つ、お詫びというか、お断りというか……。 (久保に視線を送っ

て促す)

プッチン えっ？

久保 あっ、あのー、こちらにいた新人の瀬戸内君なんですけど。

プッチン 瀬戸内？

久保 はい。あのー、うちの事務所で預らせていただくことになりました。

劇団員たち ああー。

久保 今後はうちでマネージメントをさせていただくことになりましたんで、どうか

お見知りおきのほど……。

劇団員たち へえー……。

早乙女 あんまりいい辞め方しなかったみたいだから、ちよつと気が引ける部分があ

ったりもしたんだけど、でも若いし、ちよつとの間だったけど、私見てて、何かす

ごいオーラがあつて、将来性も感じて、それで私が社長にお勧めしたのよ。

プッチン そうなんですネ。

早乙女 悪く思わないでね。

プッチン はあ……。

加賀 まあ、もう、うち辞めましたからねー。どこで何しようが、自由ですからね。

早乙女 そうよね。

プッチン まあ、ちよつとまだモノ知らないところがありますけどねえ……。

早乙女 そのうち、大河とか、朝ドラとか、そういうの出るようになるかもしれない

わねえ。あっ、そしたら劇団プッチンに所属してたってプロフィールに載せておき

ましようか。プッチンの宣伝にもなるし。

プッチン いやいや、いいです。ホンの一ヶ月程度いただけで、何も別に教

えたわけじゃないですから。

宮野 公演にも出てないですしね。

早乙女 あらそう？

プッチン あの、お気持ちだけで……。

久保 (時計を見て) あのーそろそろ……。

早乙女 あっ、そうね。じゃあ、次の現場があるから。

プッチン ああー。

高木 ホントご丁寧にありがとうございます。

早乙女 いえいえ、こちらこそ、ご迷惑おかけして本当にゴメンなさい。

久保 ホント、申し訳ありませんでした!

劇団員たち いえいえいえ。

早乙女 また今度呼んでちょうだい。

プッチン もちろんです。

早乙女 ご一緒できるの楽しみにしてるわ。

プッチン ありがとうございます!

早乙女 じゃ、失礼します。

久保 失礼いたします。

プッチン お気をつけて。

早乙女と久保、上手の出入口から去る。

劇団員たち はあー……。

プッチン なんだよなあ。

宮野 あの新人、ちゃっかりしてますねー。いつの間に……。

加賀 うらやましいんの?

宮野 いや、うらやましいわけじゃ……。

プッチン 亜由美さんも亜由美さんだよ。

加賀 まあまあしようがないじゃない。ああいうゴタゴタ目の前で見せられちゃねえ。

遺書が表に出なかっただけ、いいと思わないと。

プッチン まあ、その辺はなあ。あのライターさんに感謝だな。

宮野 大ごとにならなくてホント良かったっすね。

高木 良くない良くない。公演中止で結構な赤字なんだからね。

一同 ああー……。

高木 劇場のキャンセル代、チラシの印刷代、チケット払い戻しの返金手数料、それ
に……。 (松原の遺影に視線を送る)

一同 ……。

宮野 じゃあ、またやりですか。仕切り直しで。隔離期間も終わったことだし。

一同 いやー……。

プッチン やるつつあったって、ホンがなあ……作者いないし。

宮野 あれ? あのホン使っちゃダメなんすか?

プッチン 一応、書いたの文子だからな。

宮野 ああー。

プッチン 著作権は作者にあるから。

宮野 そうなんすね。

高木 あつ、そう言えば、やるみたいですよ、リーディング、二人の新しいユニットで。

一同 へえー……。

高木 来週だったかな。

加賀 どこで？

高木 なんか、高円寺かそのあたりのカフェで。

一同 へえー……。

プッチン まあ、二人でやるなら、自由にやればいいんじゃないか？ 誰に気兼ねすることもなく。

加賀 台本も元のバージョンでやるかもね。イラク戦争とか、盛り込みすぎだと思うけど。

プッチン いいんじゃないか。うん。好きにやればいいよ。

宮野 そうっすね。

プッチン あつ！ なんなら、みんなで観に行くか！

宮野 あつ、いいっすね。

加賀 ええーやめときなよ。それパワハラだよ。

プッチン えっ？ これのどこがパワハラなんだよ。金払って見るんだから。

加賀 相手が嫌がったら、パワハラなの。

プッチン なんにもできないなあ。

上手のドアをノックする音。

寺本がやって来る。

高木 はい。

寺本 こんにちはー。

一同 ああー。

プッチン こないだはどうもすみませんでした。

寺本 いえいえ。

プツチン いろいろとご配慮いただいて。

寺本 まあ、公転の件とはちよつとレベルが違いましたからね。私の方でも判断がちよつと難しくくて……。

プツチン はあ。

寺本 あと、桜井さんとあのあと連絡がまったくつかなくなりましてね。

一同 ええー……。

寺本 内容についての確認もできなくなってしまったんで……。

プツチン そうなんですネー。

寺本 で、ちよつと気になったんで、調べてみたんですけど。

一同 はあ。

寺本 事故物件について。

一同 えっ？

寺本 実は、このフロアらしいですね。

一同 えっ？

寺本 自殺があったの。

一同 ええっ!？

寺本 あそのこの部屋で。

一同 ええーっ!？

加賀 ちよつとプツチン、ガチな事故物件じゃない!

宮野 そうっすよ、エイプリルフル、ウソじゃないすか!

プツチン ええ、でも下って聞いたんだけどなあ。

高木 えっ？ それホントなんですネー？

寺本 はい。ご遺族の方、あの、お母様に、直接お話うかがうことができてまして。

プツチン えっ？ そうなんですネー？

寺本 その方、息子さんが亡くなられてから、ブラック企業の対策とか、そういうの支援するNPO法人をやられてまして。

一同 へえー……。

寺本 で、そのお名前がですねえ……桜井さんって方で。

一同 桜井？

高木 えっ？ じゃあ、こないだの同級生の桜井さんと……えっ？

寺本 あつ、それはちよつとよく分からないんですけど、ただ、念のため松原さんの同級生を調べみたんですけど、あと、当時のバレー部の部員とか。

一同 はあ。

寺本 桜井って人は見当たらなくて……。

一同 ええー……。

プツチン ってことは……。

一同 んん???:……ええー……。 (と驚愕する)

宮野 ……マジすか？

寺本 まあ……分からないですけどね。あつ、なんか、脅かしてしまったようで、すみませんでした。

一同 いえいえいえ……。

寺本 (フレームに入った松原の写真を発見して) あつ……松原さん、ですね。

一同 ああー……。

プツチン いやまあ、なんていうか、せめてもの供養というか……なんというか……? ……?

高木 四十九日までなんですけどね。

宮野 期間限定っす。

寺本 ああー……いいと思います。ちよつと、失礼します。

寺本、少し入り、松原の遺影に手を合わせる。

寺本 じゃあ、私はこれで。

一同 ああー……。

寺本 今度、劇あったら、伺いますんで、ぜひお知らせ下さい。

一同 はい！ ありがとうございます。

寺本 じゃあ、失礼します。

一同 (頭を下げて見送る)

寺本、上手の出入口から去る。

プツチン マジかよー。

加賀 やっぱ稽古場じゃない!

プッチン まったく神田の情報アテになんねえなあ。

宮野 やっぱ久保さんの体調不良もそれですかね?

加賀 それはただの感染症でしょ。

宮野 そうすかねえ。

高木 引越します? お金ないけど。

宮野 その方がいいですよ。

高木 どうします?

宮野 絶対なんかありますって、ここ。

加賀 だから関係ないって。

プッチン うーん……(柴田恭兵風に)「関係ないね!」

加賀 あつ、懐かしいー柴田恭兵。

プッチン オレ出たことあんだよ、子役で。

高木 あつ!

一同 ん?

高木 『あぶない刑事』だ! 『あぶない刑事』!

一同 ?

高木 80年代の刑事ドラマ!

加賀 ああー……『あぶない刑事』ね。

宮野 えっ? なんすか、それ。

加賀 知らない?

宮野 はい。

加賀 館ひろしと柴田恭兵がコンビのさあ、すごい人気の。

プッチン (柴田恭兵風に)「関係ないね!」

加賀 (プッチンを指さして)柴田恭兵。

宮野 へえー……。

高木 でも、せっかく思い出したのに、辞めちゃいましたね。

加賀 ああーそうだねー。

宮野のスマホの通知音が鳴り、宮野、それを確認する。

プッチン 何が？

加賀 さくらさくら。

プッチン ん？

宮野 あっ……またロシアの攻撃が始まったみたいっすね。ドンバス地方で60人死
亡ですって。

一同 ああー……。

加賀 いつになったら終わるんだろうねえ。

一同 うーん……。

宮野 やっぱ、核とか使われちゃうんすかねえ。

一同 ああー……。

高木 いや。そんなの、絶対に起こってはいけない。

プッチン うん！ だんだな。

一同 うん。(頷く)

スマホのニュース画面に見入る四人。

下手側のドアがひとりでに開き、スーツ姿の男が出てきて四人を見る。

その脇には松原の遺影も四人を見ている。

スーツ姿の男、不意に頭を垂れる。首を吊った時のように。

暗転。

了

◎引用・参考文献等

・日刊ゲンダイ Digital (2022/4/30 公開)

田岡俊也「ロシアのウクライナ侵攻は米軍のイラク戦争とどう違うのか」
<https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/money/304630>

「絶対に怒ってはいけない!？」